

療育のあゆみ

2023年（令和5年）度業務統計

福 井 県
福井県こども療育センター

2024年（令和6年）7月

はじめに

昨年（2023年（令和5年））4月にこども家庭庁が発足しました。『こどもまんなか』の社会を実現しこどもの意見を聴き、こどもにとっていちばんの利益を考えて福祉や健康の向上を目指すとのことです。障害児施策はいままでの厚労省からこども家庭庁の管轄となりました。療育センターのとりくみの多くはこども家庭庁による施策に基づくこととなります。「こども基本法」にあるように、すべてのこどもは障がいがあってもなくても大切にされ基本的な人権が守られ大事にされなくてはなりません。「こども基本法」の6つの理念を大切に子どもたちと関わっていこうと思っております。

昨年度に引き続き2023年（令和5年）度も地域支援体制整備にとりくみました。嶺南支援事業（2011年（H.23～））、小児療育担当職員等実務研修（2014年（H.26～））、リハイク（2020年（R.2～））地域の支援学校へのリハ職種派遣、リハシル（2022年（R.4～））教育との連携をテーマとしたモデル事業、入所部の短期入所での当事者支援（2021年（R.3～））に加え、『嶺南地域の市町の職員向けに専門医師による講座をYouTubeで配信』しました。この地域支援課の取り組みは、業務の効率化に取り組んだ医療課の『申請業務のオンライン化』とともに県でも評価され【福井県職員クレドアワード部局長賞】を受賞しました。今後もより一層の地域支援体制の充実にとりくんでいきます。

当センターの理念と基本方針は以下の通りです。

理 念：

「私たちは、あらゆる障がい児のために療育環境と療育技術の向上に努力いたします。」

基本方針：

- 1) あらゆる障がい児に対し、高度な医療と福祉を提供いたします。
- 2) 県内各関連機関との連携を強化し、地域療育拠点施設として貢献いたします。
- 3) あらゆる障がい児の成長過程に合わせたQOL（生活の質）の向上を目指して、個々のニーズに対応いたします。

「こども」はいつかおとなになります。障害者の施策は厚労省管轄の障害者施策となります。小児から成人期のフォロー体制へどのようにつないでいくのか？18才以降の方々の生活についても考慮することが求められています。

今後とも『支援の必要な児・およびご家族、支援者の方々』へ、より質の高い医療と療育を提供することを目指して努力する所存ですので、皆さまのご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。

この「療育のあゆみ」は、2023年（令和5年）度の業務実績をまとめたものです。

御高覧のうえご意見・ご感想をいただければ幸いです。

2024（令和6）年4月

福井県こども療育センター所長 津田明美

目 次

I センターの概況	
1 業務概要	1
(1) 療育相談・診療部門	
(2) 福祉施設部門	
(3) 地域支援活動	
(4) ボランティア活動	
(5) 広報活動	
2 沿革	8
3 職員・各種委員会	9
II 業務統計	
1 療育相談・診療部門	10
A 外来新患	10
(1) 相談別集計	
(2) 年齢別集計	
(3) 紹介元別集計	
(4) 住所別集計	
A-1 各科外来新患分類	12
(1) 小児科	
(2) リハビリテーション科	
(3) 整形外科	
(4) 耳鼻咽喉科	
(5) 児童精神科	
B 診療・療育相談	16
(1) 外来児の取扱数(診療科別延人数)	
(2) 手術件数	
(3) ボトックス治療実施件数	
(4) 診療科別処方数	
(5) 診断書・意見書等作成件数	
(6) 補装具作成件数(椅子など)	
(7) 補装具作成件数(装具)	
(8) 放射線部位別撮影件数	
(9) 生理検査件数	
(10) 検体検査件数	
(11) 心理判定・心理治療件数	
(12) 心理判定・心理治療の障がい別実人数	
(13) 心理治療技法別件数	
(14) 種類別心理検査実施件数	
(15) 医療ソーシャルワーカー相談件数	
(16) 栄養指導延件数	
(17) 外来講座実施状況	
C リハビリテーション(理学療法・作業療法・言語聴覚療法・音楽療法)	22
(1) 理学療法の障がい別実施件数	
(2) 理学療法の年齢別実施人数	

(3) 作業療法の障がい別実施件数	
(4) 作業療法の年齢別実施人数	
(5) 言語聴覚療法の障がい別実施件数	
(6) 言語聴覚療法の年齢別実施人数	
(7) 音楽療法の障がい別実施件数	
(8) 音楽療法の年齢別実施人数	
2 福祉施設部門	30
A 医療型障害児入所施設 つくし園	30
(1) 月別在籍数 (初日現在)	
(2) 障がい別集計	
(3) 年齢別集計 (入所時)	
(4) 住所別集計	
(5) 進路別集計 (退所時)	
(6) 在籍期間別集計 (退所時)	
(7) 重複症状別人数	
B 児童発達支援センター つばさ	33
(1) 月別在籍数 (初日現在)	
(2) 障がい別集計	
(3) 年齢別集計 (通所開始時)	
(4) 住所別集計	
(5) 進路別集計 (退所時)	
(6) 在籍期間別集計 (退所時)	
(7) 重複症状別人数	
(8) 水治療室利用件数	
C 生活介護事業所 「オアシス」	36
(1) 月別在籍数 (初日現在)	
(2) 月別利用者延べ人数	
(3) 障がい別集計	
(4) 年齢別集計 (年度開始時)	
(5) 住所別集計	
(6) 入浴利用者延べ人数	
(7) バス通所利用者延べ人数	
(8) 重複症状別人数	
D 短期入所	38
(1) 利用件数	
(2) 重複症状別人数	
3 地域支援活動	39
A 療育研修会	39
B 療育支援活動	40
(1) 診療科別実施状況	
(2) 地域支援課実施状況	
(3) 特別支援学校リハビリ相談事業～リハイク～実施状況	
C 嶺南地域療育機能強化支援事業	44
D 子育て講座実施状況	46
4 その他の活動	47
A ボランティア活動	
(1) ボランティアの受入状況	

- B 実習・見学
 - (1) 実習生研修状況
 - (2) 施設見学・視察受入状況
- C 水治療室の利用者別実施人数

Ⅲ 研究業績	48
1 学会発表	48
2 講演	53
3 執筆	56
4 所内研修	57

I センターの概況

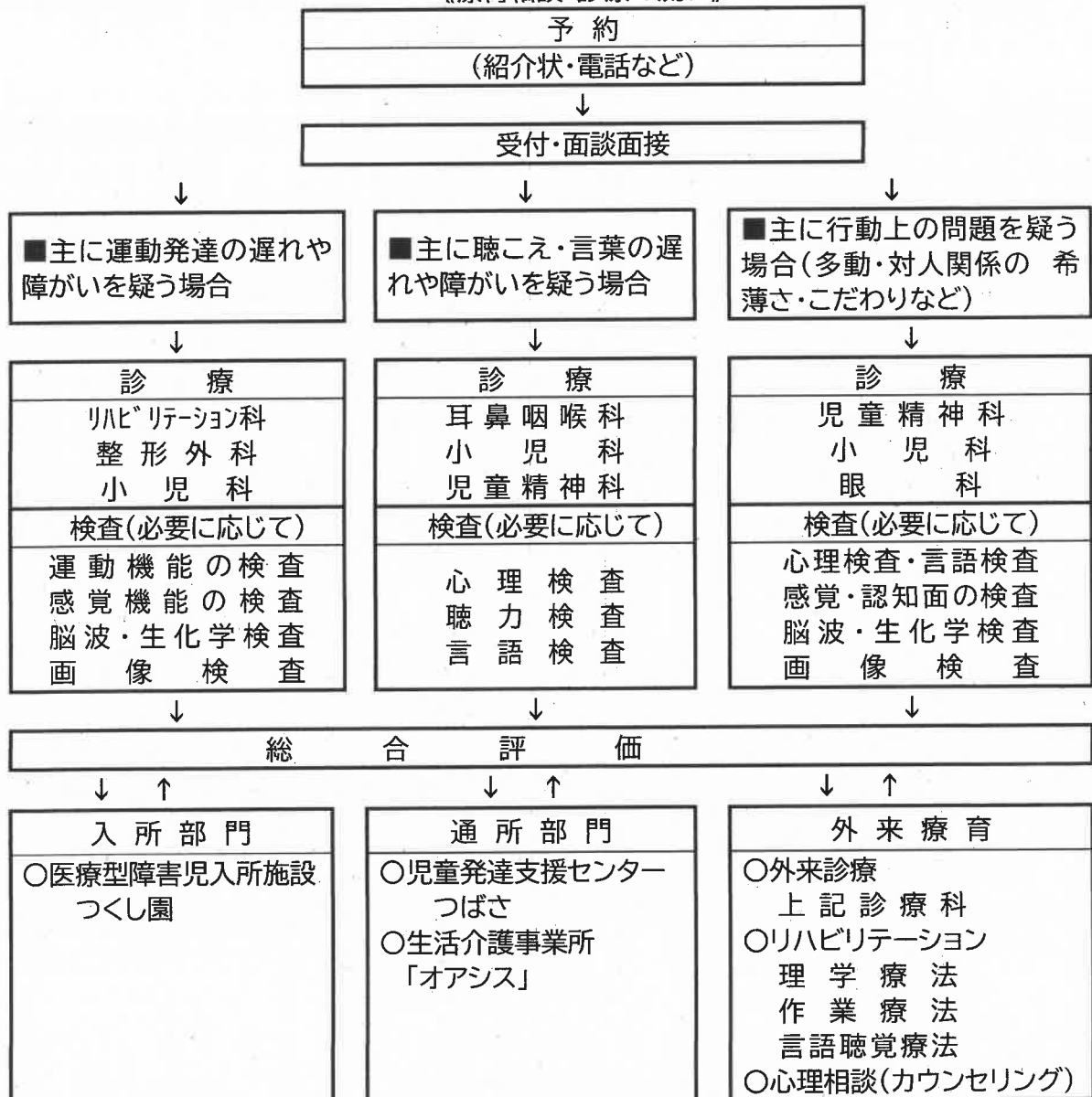
1 業務概要

こども療育センターは、医療と福祉の機能を併せ持ち、医師など 15 に渡る職種の職員がチームを組んで障がい児のために総合的できめ細やかな療育を行っている機関です。

また、下表のように、医療や保健、児童福祉、教育機関など、各関係機関とも相互に連携を取り合っています。

医 療	保 健・福 祉	教 育
福井県立病院 各医療機関	総合福祉相談所 児童相談所 県健康福祉センター 市福祉事務所 市町保健センター 保育所、児童発達支援 相談支援事業所など	特別支援教育センター 特別支援学校 その他の諸学校 幼稚園など

《療育相談・診療の流れ》



(1) 療育相談・診療部門

生後間もなく身体や発育の異常に気づかれたお子さんや、地域の医療・福祉・教育の機関等で気がかりさを指摘されたり発達の遅れを疑われたお子さん達が、専門的な診断・治療を希望して保護者や関係者とともに窓口を訪れます。

紹介制を原則とし、あらかじめ電話等で日時の予約をしていただきます。初診予約は医療ソーシャルワーカーが対応し、相談の内容に応じて、診療、検査、テストなどの順序や組合せを考え、予約を受け付けます。

診療にあたり、医師(リハビリテーション科・小児科・整形外科・耳鼻咽喉科・児童精神科・眼科)はお子さんの成長発達全体について専門的な検討を行います。それを踏まえて、各種機能の発達の遅れや異常、精神発達の状態像を正確に把握するために、必要に応じて各部門で次のような諸検査が行われています。

生理的検査	脳波検査、心電図、聴性脳幹反応検査など
画像検査	X線撮影、超音波検査など
身体運動機能検査	〈理学療法〉身体計測、筋力テスト、関節可動域テスト、感覚(知覚)検査、脳性麻痺簡易運動テスト(SMTCP)など
精神運動発達検査	〈理学療法〉日本版デンバー式発達スクリーニング検査、運動年齢検査、ADLテストなど 〈作業療法〉乳幼児発達スケール(KIDS)、こどものための機能的自立度評価表(WeeFIM)など
認知・感覚面の検査	〈作業療法〉フロスティック視知覚発達検査、WAVES、感覚プロファイルなど
聴力検査	条件詮索反応検査(COR)、遊戯聴力検査、純音聴力検査など
言語発達等検査	絵画語彙発達検査、田研式言語発達診断検査(語彙検査)、質問-応答関係検査、小学生の読み書きスクリーニング検査など
音声に関する検査	構音検査、発声・発語器官機能検査など
心理検査	新版K式発達検査、WISC-V、田中ビネー知能検査、PARS、Vineland-II適応行動尺度、描画テストなど

このような多方面にわたる検査や評価を統合して、持ち込まれた問題への対応策が示され、お子さん本人やご家族に対して、毎日の生活に密着した養育の指導がなされます。

外来診療としては、てんかん発作のコントロール、自閉スペクトラム症などの発達障がいへの児童精神医学的にかかわり、言語・聴覚障害児の言語聴覚療法や補聴器装用指導、肢体不自由児の義肢・装具の装着、一般病院では対応の難しい小児整形外科疾患の診断・治療、理学療法・作業療法および心理療法(遊戯療法など)などの専門的な治療を行っています。

なお、事後の継続的な医学的観察や治療の一部は、紹介医療機関などに依頼することもあります。

そのほかに、特別外来として、2023年度は以下のものを実施しました。

- ・「ペアレント・プログラム外来」(発達障がい児の保護者対象。公認心理師が担当。)
- ・「ペアレント・トレーニング外来」(発達障がい児の保護者対象。公認心理師が担当。)

- ・「いるか外来」(地域の児童発達支援事業所の小集団療育を利用していない年中の発達障がい児対象の小集団療育。医師、言語聴覚士、公認心理師が担当。)
- ・「カナリア外来」(発達障がい児の保護者対象の学習会。医師、公認心理師が担当。)
- ・「しゃべり場」(発達障がい児本人のグループトーク。公認心理師が担当。)
- ・「水治療法」(運動に遅れや障がいがあるお子さん及び運動が苦手なお子さん対象のプールでのプログラム。理学療法士が担当。)

お子さんの発達や機能の向上には、家庭や集団生活場面での指導方法や留意点についての助言が求められます。保健や栄養・心理面への配慮、子育て環境の調整などについての各専門スタッフによる指導や援助も欠かすことができません。

当センターでは、保護者支援の一環として講座を行っています。2023 年度も実施しました。

当センターではお子さんが本来持っている力を最大限発揮できるように、成長・発達を支えます。ご家族と一緒に、お子さんを取り巻く地域社会の機能や資源も活用して、お子さんが生き生きと楽しく生活できるように考えることを療育相談・診療部門の役割としています。

(2) 福祉施設部門

こども療育センターは、医療と福祉がひとつになった、障がい児のための総合療育機関であり、療育相談・診療部門と福祉施設各部門が連携しています。

児童発達支援センター つばさ 定員40名/1日
<p>運動や対人・コミュニケーションの発達に専門的支援を必要とする就学前のこども達が親子で通所する施設です。それぞれの発達状態や特性に合わせたグループ療育を行っています。</p> <p>保育士や看護師等が保育や健康相談等を提供する中で、健康面、情緒面、生活面やコミュニケーション面の発達援助に取り組んでいます。</p> <p>また、お子さんが社会に適応し家族とともに楽しい生活が送れるよう、保護者支援や地域療育支援も行っています。</p>
医療型障害児入所施設 つくし園 定員50名
<p>運動発達の遅れや運動機能に障がいがある18歳までのお子さんに対して、整形外科、リハビリテーション科、小児科などの医学的管理のもと、治療や看護、発達支援、日常生活指導、保育など、一人ひとりの個性を大事にした療育を行っています。また、理学療法、作業療法、言語療法などお子さんに必要なリハビリテーションを行い、機能の向上や発達を促しています。</p> <p>学齢児童は隣接する福井東特別支援学校へ通学することができます。</p> <p>(母子入所) 乳幼児で治療上付き添いが必要な場合は、お子さんと母親と一緒に入所することができます。</p> <p>(短期入所) 18歳未満の肢体不自由児・重症心身障害児、18歳以上の重症心身障害者を対象としています。保護者の様々の理由により、一時的に自宅で介護を受けることが困難なお子さんを、日帰りから原則1週間までお預かりしています。ご家族のレスパイト(休息)としてもご利用いただけます。</p>
生活介護事業所「オアシス」 定員15名
<p>対象は、高等学校卒業後(18歳以上)の重症心身障がい者です。</p> <p>看護師の医療的な関わり、療法士と共に行う身体運動、保育士による日中活動などを提供することにより、社会性の向上や運動機能の維持・向上を目指します。成人期の社会生活につながるよう様々な集団活動を行っています。</p>

(3) 地域支援活動

1) 療育研修会

障がいのある子どもの地域社会への参加・包容(インクルージョン)の推進のため、保護者や支援者を対象に、さまざまな分野において造詣の深い講師を招き、障がい児・者支援に関する知識や情報などを講義や実技指導を通し学ぶ研修会を行っています。

また、障がいのある子どもの健やかな育成のために、地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育、就労支援等の関係機関が連携を図り、切れ目のない一貫した支援を提供する体制の構築を図れるよう、支援者を対象に、所内見学会やグループワークを行うなど、当センターの役割・機能の周知や、顔の見える関係作りの機会等を通じて、地域との連携を深めるような取組みも研修会の一部として行っています。

療育研修会を通して、障がい児・者への理解、支援の輪が広がり、関係機関が繋がることで、障がい児・者の日々の生活がより過ごしやすく、豊かなものとなるよう取り組んでまいります。

2) 療育支援活動

専門的な療育・教育機関等からの要請を受け、センターの職員が出向いて医学的管理や療育技術の指導を行うなどの支援を行っています。主な支援活動は表のとおりです。

施設・学校・機関	内 容	スタッフ
地域療育拠点施設 (委託医療機関及び事業所)	小児療育体制確保事業(県障がい福祉課)の受託施設に対して、診療および療育を担当する職員への研修を行う。	医 師 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士
福井県教育委員会	就学指導委員会において、就学児等の各種相談・病状などに対し、医療面から専門的助言などを行う。	医 師
福井市子育て支援室	保育所入所児発達相談専門委員会において、保育所入所希望児の各種相談・病状などに対し医療面から専門的助言や指導を行う。	医 師
福井市教育委員会	教育支援委員会や特別支援専門委員会において、就学児等の各種相談・病状などに対し、医療面から専門的助言などを行う。	医 師
特別支援学校	特別支援学校での学習や生活現場における医学的な留意事項や介助、支援方法を家族および担当教諭に専門的な立場から助言などを行う。	医 師 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士
学校 児童福祉施設 障害福祉サービス事業所	教員、保育士、支援者等に見学の受け入れや障がいや気かりさのある児、者への理解を深めるための研修を行う。	医 師 保育士 公認心理師 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士
児童発達支援センター 児童発達支援事業所	事業所利用児の発達健診や保護者学習会等を通じ、保護者への支援や職員指導、市町の支援体制づくりへの助言などを行う。	医 師

3) 嶺南地域療育機能強化支援事業（地域支援グループ）

気がかりさがあるお子さんの療育は、「子どもの身近な地域における早期からの支援」が求められており、県全域で必要とされる専門的療育を提供する体制が必要です。このため福井県では医療と福祉の機能が一つになった、総合療育機関であるこども療育センターから遠方の嶺南地域に対して、地域療育拠点病院や事業所にリハビリテーション職種の派遣を行ってきました。

2012年度からは、言語聴覚士と公認心理師を若狭健康福祉センターに駐在、理学療法士と作業療法士をセンターから派遣しています。病院や事業所、市町の母子保健や相談事業へ研修等を通じて、支援方法の提案を行っています。

その他、2023年度の取り組みとして、当センターで実施している外来講座を嶺南の各市町で発達支援に関わる支援者に向けてYouTubeで限定配信しました。

4) 小児療育担当職員等実務研修（児童発達支援センター つばさ）

2010、2011年度に、発達障がい児支援に関する人材育成の一役を担う目的で、「発達障害児支援に関する保育士研修」を旧難聴幼児通園施設ひばり園（現児童発達支援センターつばさ）で受け入れました。（2012、2013年度については、諸般の事情により行っていません。）

2014年度からは、地域療育の充実を図るために、「小児療育担当職員等実務研修」を児童発達支援センターつばさで受け入れています。

2017年度から研修型のペアレント・プログラムのコース、2022年度は出張講座「ほめるコツ～ペアレント・プログラムのエッセンス～」、2023年度からは出前講座「ほめるコツ～ペアレント・プログラムのエッセンス～」に名前を変えて実施しています。

2023年度実施内容は以下の通りです。

対 象：地域で発達障がいをはじめとする障がい児への支援に従事する職員。

研修コース：1週間コース、ペアレント・プログラム（ペアプロ）コース、

出張講座「ほめるコツ～ペアレント・プログラムのエッセンス～」コース

研 修 内 容：障がい児に対する直接的な支援方法や保護者支援等に関する技術の習得を図ります。

*ペアレント・プログラム：子育ての困り感を丁寧に分析し、子や自身を行動で捉え、できたことをほめる子育て、また、保護者同士の仲間づくりを目指すプログラム。

5) ペアレント・プログラム（児童発達支援センター つばさ）

2015年度より保護者を対象に、2017年度からは小児療育担当職員等実務研修「ペアレント・プログラム」コースを兼ねたペアレント・プログラムを実施しています。

6) 子育て講座（児童発達支援センター つばさ）

2014年度より保護者を対象に、2021年度から支援者も対象に実施しています。

7) 地域支援グループ（理学療法士(PT)・作業療法士(OT)・言語聴覚士(ST)・公認心理師)の活動

特別支援学校を対象にしたリハビリ相談事業「リハイク」は、実際の授業場面や、学校生活に立ち会い、リハビリテーションの視点から教育現場に取り入れやすい支援方法を提案しています。当日の記録は後日、資料として提供しています。

また学校、児童福祉施設、障害福祉サービス事業所等に出向いて、実際の様子を伺いながら、各施設に合わせた出前講座「リハシル」を実施しています。

(4) ボランティア活動

ボランティア活動は利用者サービスの向上に寄与するとともに、活動者にとっては自己実現のための自発的な活動です。当センターでも『福井県こども療育センターボランティア運営要綱』を定め、活用を図っています。

(5) 広報活動

ホームページおよびパンフレットにて当センターの紹介をしています。

2 沿革

- 昭和 35 年 6 月 肢体不自由児施設「福井県立あかり学園」(定員 50 名)開設
昭和 36 年 12 月 母子室 10 床完成(定員 60 名)
昭和 42 年 4 月 「福井県あかり整肢園」に名称変更 「福井養護学校」併設
昭和 46 年 4 月 肢体不自由児通園センター(定員 30 名)開設
昭和 51 年 3 月 福井県児童福祉審議会提言
「医療・福祉・教育各分野での三位一体の機能を持つ心身障害児
総合相談センターが必要である」
昭和 54 年 4 月 県立病院内に県立福井養護学校四ツ井分校開校
昭和 58 年 4 月 福井県立福井東養護学校開校
昭和 58 年 4 月 福井県小児療育センター開設
本県の総合療育施設として県立病院敷地内に東養護学校、特殊教育
センターと共に一体的に整備。肢体不自由児施設「つくし園入所部」
(定員 50 名)、同「つくし園通所部」(定員 30 名)、難聴幼児通園施設
「ひばり園」(定員 30 名)を設置
平成 15 年 4 月 小児療育センター再整備基本計画策定
県立病院再整備に伴う「県立総合医療センター」構想の一環として策
定
(基本理念)
①あらゆる障がい児に対し、総合的かつ高度な医療と福祉を提供
する総合療育センターを目指す
②県内各圏域の地域療育支援施設や市町村保健センター、保育所
および教育機関等との連携を強化し、本県地域療育の拠点施設
とし貢献するセンターを目指す
③あらゆる障がい児の成長過程に合わせた QOL(生活の質)の向
上を目指して、個々のニーズにあった施設や人的貢献を提供でき
るセンターを目指す
平成 17 年 4 月 新施設建設開始
平成 19 年 4 月 新施設開設
「福井県こども療育センター」に名称変更
「福井東養護学校」「特別支援教育センター」「県立看護専門学校」と共
に同じ建物内に一体的に整備された。
「リハビリテーション診療科」を新設
重症心身障害児(者)通園事業 A型「オアシス」を開始
平成 24 年 4 月 児童福祉法の改正により、施設部門はそれぞれ、
医療型障害児入所施設つくし園
医療型児童発達支援センターつくし園
福祉型児童発達支援センターひばり園
としてみなし指定
「オアシス」は児童発達支援・生活介護事業所に変更
平成 25 年 4 月 医療型児童発達支援センターつくし園と福祉型児童発達支援
センターひばり園を統合し、
児童発達支援センター つばさを開設
令和 3 年 4 月 「オアシス」は児童発達支援を休止

3 職員・各種委員会

当センターの業務運営にかかわる職種別人員と各種委員会は、以下のとおりです。

1) 職種別人員

(2023年4月1日現在)

職種	人員	職員数 〔()は非常勤外数〕	摘 要																																										
所長(医師)		1	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">診療科別医師数</th> </tr> <tr> <th></th> <th>常勤</th> <th>非常勤</th> <th>兼務</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リハビリテーション科</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小児科</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>外科</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>整形外科</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>耳鼻咽喉科</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>眼科</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>児童精神科</td> <td></td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>麻酔科</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>			診療科別医師数					常勤	非常勤	兼務	リハビリテーション科	1			小児科	5	4	2	外科			1	整形外科	1	1		耳鼻咽喉科	1		1	眼科			1	児童精神科		3		麻酔科			1
診療科別医師数																																													
	常勤	非常勤				兼務																																							
リハビリテーション科	1																																												
小児科	5	4				2																																							
外科						1																																							
整形外科	1	1																																											
耳鼻咽喉科	1					1																																							
眼科						1																																							
児童精神科		3																																											
麻酔科						1																																							
事務職員		4																																											
医師		7 (8)																																											
薬剤師		1																																											
栄養士		2																																											
診療放射線技師		1																																											
臨床検査技師		1																																											
看護師		25																																											
公認心理師		4																																											
医療ソーシャルワーカー		2																																											
保育士		13																																											
理学療法士		6																																											
作業療法士		5																																											
言語聴覚士		8																																											
音楽療法員		(1)																																											

(臨時任用職員は含めない)

2) 各種委員会

- 危機管理委員会
- 医局会
- 利用者サービス改善委員会
- 虐待対応委員会
- 情報委員会
- 診療録管理・医事委員会
- 広報図書委員会
- 研修委員会
- 感染対策委員会
- 薬事委員会
- 医療機器安全委員会
- 医療ガス安全管理委員会
- 療育安全管理委員会
- NST委員会
- 栄養管理委員会
- 褥瘡対策チーム
- 防災委員会
- 倫理審査委員会
- 改修委員会

II 業務統計

1 療育相談・診療部門

A 外来新患(全診療科)

(1) 相談別集計

(単位:人)

相談内容	年度	2021年度	2022年度	2023年度
運動のおくれ		46	43	48
言葉のおくれ		146	135	139
落ち着き、集中		95	89	61
やりとりが苦手		22	31	21
こだわりが強い		11	15	17
学習の苦手さ		20	28	9
不登校/登園しぶり		7	8	6
睡眠について		3	4	0
股関節脱臼		212	309	269
背骨の変形や痛み/痛み		40	26	26
手足の変形/痛み		34	38	40
補装具作成		1	1	1
歩き方など		18	23	12
聴力		21	27	29
発音の問題		24	22	35
診断書作成		1	2	1
その他		88	67	39
合計		789	868	753

(2) 年齢別集計

(単位:人)

年齢	年度	2021年度	2022年度	2023年度
6ヶ月未満		231	300	263
1歳未満		58	29	29
1歳		57	76	71
2歳		72	74	60
3歳		107	108	104
4歳		72	91	72
5歳		65	63	57
6~12歳		95	99	75
13~17歳		27	26	20
18歳以上		5	2	2
合計		789	868	753

(3) 紹介元別集計

(単位:件)

紹介者	年度	2021年度	2022年度	2023年度
福井県立病院		72	40	59
他の医療機関		327	474	429
学 校		13	4	5
幼稚園・保育所		15	9	4
児童相談所		3	3	1
市 町 村		173	218	197
児童発達支援センター		18	30	23
そ の 他		168	90	35
合 計		789	868	753

(4) 住所別集計

(単位:人)

住所	年度	2021年度	2022年度	2023年度
福井市		365	366	327
永平寺町		19	20	26
坂井市		113	115	118
鯖江市		71	86	71
あわら市		21	43	24
越前市		82	87	94
越前町		6	11	6
池田町		0	2	2
勝山市		21	23	16
大野市		23	22	15
南越前町		3	7	8
嶺北計		724	782	707
敦賀市		38	49	19
美浜町		2	8	3
若狭町		3	5	1
小浜市		1	4	2
高浜町		0	1	0
おおい町		1	0	1
嶺南計		45	67	26
県内計		769	849	733
県外計		20	19	20
合 計		789	868	753

・表の住所:こども療育センターから直線距離で近い順

A-1 各科外来新患分類

(1) 小児科

障害別集計

(単位:人)

障害の区分		年度	2021年度	2022年度	2023年度
神経発達症	神経発達症群	知的発達症	26	40	30
		言語症	45	28	25
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞あり)	90	115	96
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞なし)	113	118	85
		特異的学習症	8	13	3
		発達性協調運動症	10	2	3
		チック症、トゥレット症候群	1	1	0
		注意欠陥多動症	38	48	34
		吃音症、その他の神経発達症	15	9	6
精神神経疾患	一時性精神症など	統合失調症、気分症など	0	0	0
	不安関連症群	緘黙、社交不安症、分離不安症など	3	4	0
	強迫症群	身体への反復行動症など	0	0	0
	ストレス関連症群	反応性アタッチメント症 脱抑制性対人交流症 心的外傷後ストレス症など	3	1	0
	衝動制御症群など	間欠爆発症、反抗挑発症など	1	1	0
	その他	睡眠障害、遺尿・遺糞症、食行動症など	3	0	0
その他	染色体、遺伝子の異常など	ダウン症候群	8	9	6
	その他	その他	10	3	6
	その他	不登校など	4	6	4
中枢神経(脳・脊髄)疾患		脳性麻痺(疑いも含む) 中枢性協調障害	5	9	5
		脳血管障害	0	1	0
		脳炎・脳症	2	0	2
		その他	5	0	4
(末梢)神経・筋疾患		筋ジストロフィー	0	0	3
		その他	1	0	2
原因不明の発達の遅れ			9	19	21
	言語機能障害	言語発達遅滞	6	8	6
	聴覚障害	難聴	2	2	0
	音声機能障害	構音障害	2	10	2
小児整形外科疾患		乳児股関節脱臼・垂脱臼	1	0	0
		発育期に特有の下肢の変形	2	0	0
合 計			413	447	343

(2) リハビリテーション科

障害別集計

(単位:人)

大分類	小分類	2021年度	2022年度	2023年度
中枢神経(脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む) 中枢性協調障害	8	4	3
	二分脊椎	0	0	0
	脳血管障害	0	0	1
	脳炎・脳症	0	1	1
	その他	7	1	0
(末梢)神経・筋疾患	筋ジストロフィー	1	1	4
	その他	1	1	2
染色体、遺伝子の異常など	ダウン症	8	4	4
	その他	4	4	5
原因不明の運動の遅れ		11	11	5
骨系統疾患	骨系統疾患	0	0	0
小児整形外科疾患	子宮内圧迫症候群	0	0	0
	斜頸	0	0	0
	先天性内反足・内転足など	0	1	0
	乳児股関節脱臼・亜脱臼	0	0	0
	発育期に特有の下肢変形 (O脚・X脚など)、歩容異常	20	10	4
	脊柱変形	1	1	0
	ペルテス病	0	0	0
	筋骨格外傷および後遺症	0	2	0
	その他	4	4	2
精神神経疾患	その他	0	2	0
合 計		65	47	31

(3) 整形外科

障害別集計

(単位:人)

大分類	小分類	2021年度	2022年度	2023年度
中枢神経(脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む) 中枢性協調障害	1	0	0
	二分脊椎	1	1	0
	脳血管障害	0	0	0
	脳炎・脳症	0	0	0
	その他	0	2	0
(末梢)神経・筋疾患	筋ジストロフィー	0	0	1
	その他	0	1	0
先天異常・染色体異常など	ダウン症	0	0	0
	その他	1	0	0
原因不明の運動の遅れ		1	1	3
骨系統疾患	骨系統疾患	1	6	1
小児整形外科疾患	子宮内圧迫症候群	195	311	268
	斜頸	4	12	6
	先天性内反足・内転足など	6	5	6
	乳児股関節脱臼・亜脱臼	18	3	2
	発育期に特有の下肢変形 (O脚・X脚など)、歩容異常	8	28	29
	脊柱変形	39	32	32
	ペルテス病	0	1	0
	筋骨格外傷および後遺症	5	1	2
	その他	67	13	13
	合計		347	417

(4) 耳鼻咽喉科

障害別集計

(単位:人)

障害区分	大分類	2021年度	2022年度	2023年度
聴覚障害	難聴	43	55	65
	構音障害	27	16	21
音声機能障害	その他	0	2	4
	言語発達遅滞	9	2	3
言語機能障害				
合計		79	75	93

(5) 児童精神科

障害別集計

(単位:人)

障害区分		年度	2021年度	2022年度	2023年度
神経発達症	神経発達症群	知的発達症	0	0	12
		言語症	0	2	1
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞あり)	2	6	17
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞なし)	4	4	51
		特異的学習症	1	0	2
		発達性協調運動症	0	1	0
		チック症、トゥレット症候群	0	0	0
		注意欠陥多動症	0	1	21
		吃音症、その他の神経発達症	0	0	0
精神神経疾患	一時性精神症など	統合失調症、気分症など	0	0	0
	不安関連症群	緘黙、社交不安症、分離不安症など	0	3	8
	強迫症群	身体への反復行動症など	0	1	0
	ストレス関連症群	反応性アタッチメント症 脱抑制性対人交流症 心的外傷後ストレス症など	0	1	1
	衝動制御症群など	間欠爆発症、反抗挑発症など	1	0	0
	その他	睡眠障害、遺尿・遺糞症、食行動症 など	1	1	1
その他	染色体、遺伝子の 異常など	ダウン症候群	0	0	0
		その他	0	0	0
	その他	不登校など	0	0	1
合 計			9	20	115

B 診療・療育相談

(1) 外来児の取扱数（診療科別延人数）

（単位：人）

科名	年度	2021年度	2022年度	2023年度
小児科		5,727	5,836	6,051
整形外科		1,610	996	796
リハビリテーション科		1,165	957	966
耳鼻咽喉科		264	149	130
眼科		1	0	0
児童精神科		488	555	662
合計		9,255	8,493	8,605

(2) 手術件数

（単位：件）

術名	年度	2021年度	2022年度	2023年度
選択的多数筋解離手術		5	2	3
股関節脱臼整復手術		0	2	0
脊柱変形矯正手術		11	13	10
骨切り手術（骨盤・大腿骨）		0	1	2
下肢変形矯正手術		1	0	1
足変形矯正手術（内反足、他）		5	0	4
抜釘手術		6	4	3
その他		4	3	4
合計		32	25	27

(3) ボトックス治療実施件数

（単位：件）

項目	年度	2021年度	2022年度	2023年度
ボトックス治療		41	47	44

(4) 診療科別処方数

（単位：枚）

診療科	年度	2021年度	2022年度	2023年度	
外 来	小児科	院内	23	14	7
		院外	1,511	1,738	1,624
	整形外科	院内	2	0	7
		院外	64	51	33
	リハ科	院内	1	0	3
		院外	5	15	7
	耳鼻咽喉科	院内	9	2	4
		院外	23	20	23
	児童精神科	院内	2	0	0
		院外	349	317	387
	眼科	院内	0	0	0
		院外	0	0	0
	外来計	院内	37	16	21
		院外	1,952	2,141	2,074
入 所	入所	268	195	103	
合 計	[外来(院内)+入所]	305	211	124	

(5) 診断書・意見書等作成件数

(単位:件)

項目 \ 年度	2021年度	2022年度	2023年度
特別児童扶養手当	271	145	215
福祉手当診断書	24	15	23
特別障害者手当	1	2	4
身体障害者手帳	25	22	19
意見書類	401	473	480
合計	722	657	741

(6) 補装具作成件数(椅子など)

(単位:件)

項目 \ 年度	2021年度	2022年度	2023年度
車椅子	42	23	25
電動車椅子	5	1	3
座位保持装置	24	24	9
その他	15	15	13
合計	86	63	50

(7) 補装具作成件数(装具)

(単位:件)

項目 \ 年度	2021年度	2022年度	2023年度
短下肢装具	39	47	50
靴・足底装具	35	34	45
アーチサポート	161	103	107
体幹装具	24	26	26
長下肢装具	0	3	2
骨盤帯付長下肢装具	1	3	1
股外転装具	2	1	1
股脱治療装具	1	3	0
頭蓋矯正装具	32	5	0
その他	53	57	77
合計	348	282	309

(8) 放射線部位別撮影件数

(単位:件)

撮影部位	年度	2021年度	2022年度	2023年度
頭 部		5	4	0
上 顎		0	0	0
ア デ ノ イ ド		0	0	0
胸 部		11	3	4
頸 椎		47	36	38
胸 椎		0	2	1
腰 椎		10	5	10
股 関 節		194	217	125
ラウエンスタイン		33	46	24
上 肢		9	4	3
手 根 骨		88	82	84
大 腿 骨		9	7	3
下 腿 骨		5	5	2
膝 関 節		13	10	12
足 関 節		12	4	4
足 部		68	48	29
全 脊 柱		352	369	324
下 肢 全 長		132	134	97
そ の 他		16	14	10
合 計		1,004	990	770

(9) 生理検査件数

(単位:件)

検査	年度	2021年度	2022年度	2023年度
聴性脳幹反応 (ABR)		9	2	3
心 電 図		67	47	64
脳 波 検 査		30	16	15
屈 折 検 査		23	15	6

(10) 検体検査件数

(単位:件)

項目	年度	2021年度	2022年度	2023年度
生 化 学 検 査		1,807	1,398	1,388
血 液 検 査		242	210	210
細 菌 検 査		86	56	32
血 清 検 査		4	3	0
一 般 検 査		29	23	8
病 理 検 査		0	0	0
染色体・遺伝子検査		4	1	0
薬 物 検 査		17	22	23
合 計		2,189	1,713	1,661

(11) 心理判定・心理治療件数 (単位:件)

件数		年度		
		2021年度	2022年度	2023年度
新	規	402	525	540
再	来	442	383	511
合 計		844	908	1,051

(12) 心理判定・心理治療の障がい別実人数 (単位:人)

障害区分		年度			
		2021年度	2022年度	2023年度	
中枢神経(脳・脊髄) 疾患	脳性麻痺(疑い含む)、 中枢性協調障害	23	14	0	
	二分脊椎	0	0	0	
	脳血管障害	0	0	0	
	その他	4	0	2	
(末梢)神経・筋疾患	筋ジストロフィー	0	0	0	
	その他	0	2	2	
先天性異常・染色体異 常など	ダウン症	7	6	12	
	その他	4	3	4	
小児整形外科疾患	ベルテス病	38	10	0	
	その他	0	2	0	
聴覚障害	難聴	0	3	0	
音声機能障害	構音障害	0	0	1	
	その他	0	0	2	
言語機能障害	言語発達遅滞	0	1	0	
神経発達症	神経発達 症群	知的発達症	79	80	88
		言語症	46	80	90
		自閉スペクトラム症	195	261	387
		自閉スペクトラム症	300	263	252
		特異的学習症	16	21	22
		発達性協調運動症	6	4	2
		注意欠如多動症	92	149	164
		吃音症、その他の神経発達症	0	3	2
精神神経疾患	不安関連 症群	緘黙、社交不安症、 分離不安症など	14	3	19
	強迫症群	身体への反復行動症など	0	1	0
	ストレス関 連症群	反応性アタッチメント症、脱抑制 性対人交流症、心的外傷後スト レス症など	3	1	1
	その他	睡眠障害、遺尿・遺糞症、 食行動症など	0	0	0
その他	不登校など	14	1	1	
合 計		841	908	1,051	

(13) 心理治療技法別件数

(単位:件)

治療技法	年度	2021年度	2022年度	2023年度
カウンセリング		72	35	33
特別外来(集団)		42	59	66
合計		114	94	99

(14) 種類別心理検査実施件数

(単位:件)

検査内容	年度	2021年度	2022年度	2023年度
発達検査	新版K式	288	340	363
	遠城寺式	7	5	5
	VeinLand=II	2	5	22
知能検査	田中ビネー	28	11	23
	WISC	128	144	131
性格検査	SCIT	3	0	0
	描画テスト	0	1	2
	その他	1	0	0
その他の検査	PARS	185	261	277
	ADHD評価スケール	113	135	128
	その他	3	2	1
合計		758	904	952

(15) 医療ソーシャルワーカー相談件数

(単位:件)

内容	年度	2021年度	2022年度	2023年度
インテーク受理		986	989	971
要保護・要支援児童対応		33	33	30

(16) 栄養指導延件数

(単位:件)

療育部門	年度		2021年度		2022年度		2023年度	
	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団
通所施設(つばさ・「オアシス」)	0	0	0	0	0	0	0	1
医療型障害児入所施設つくし園	0	0	0	0	0	0	0	0
外来	4	0	6	0	6	0	6	0
合計	4	0	6	0	6	0	6	1

(17) 外来講座実施状況 (2023年度)

(延べ人数)

テーマ	参加保護者	参加支援者
こどもの発達について	88	10
診断(特性)について	169	20
はじめにすること-1ことば遅れなし(ST・OT)	105	14
はじめにすること-2ことば遅れあり(ST・OT)	58	12
園・学校との付き合い方(SW)	120	18
コミュニケーション・理解(視覚的支援)	28	27
コミュニケーション・表出(PECS)	27	10
学童から思春期に大切にしたいこと	24	19
社会性・コミュニケーションについて	26	1
不注意・落ち着きのなさや学習問題について	35	1
構造化について	10	5
二次障がいについて	11	5
本人への告知について	23	2
年中セミナー	50	8
小1セミナー	77	13
小3セミナー	20	5
LDについて	27	10
計	898	180

1テーマにつき複数回ずつ実施している。表はその合計数。

C リハビリテーション（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・音楽療法）

(1) 理学療法の障がい別実施件数（延）

a. 外 来

(単位:件)

障害区分		年度	2021年度	2022年度	2023年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害		1,553	1,731	1,631
	二分脊椎		218	215	248
	脳血管障害		38	58	53
	脳炎・脳症		212	180	163
	その他		350	331	333
(末梢)神経・筋疾患	筋ジストロフィー		192	146	200
	その他		66	111	106
先天性異常・染色体異常 など	ダウン症		200	247	279
	その他		472	479	431
原因不明の運動の遅れ			350	462	576
骨系統疾患	骨系統疾患		11	5	12
小児整形外科疾患	子宮内圧迫症候群		0	0	0
	先天性内反足・内転足など		65	73	105
	乳児股関節脱臼・亜脱臼		3	25	61
	発育期特有の下肢変形、歩容異常		28	29	28
	脊柱変形		55	57	13
	ペルテス病		8	3	21
	筋骨格外傷および後遺症		38	39	24
	その他		69	64	37
神経発達症	自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞あり)		53	26	14
	自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞なし)		96	82	128
	発達性協調運動症		17	73	107
その他	不登校など		5	0	0
合 計			4,099	4,436	4,570

b. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:件)

障害区分		年度	2021年度	2022年度	2023年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害		762	178	258
	二分脊椎		58	0	0
	脳炎・脳症		120	10	0
抹消神経・筋疾患	その他		0	20	29
骨系統疾患	骨系統疾患		0	0	68
小児整形外科疾患	乳児股関節脱臼・亜脱臼		13	475	39
	ペルテス病		334	212	0
合 計			1,287	895	394

(2) 理学療法の年齢別実施人数 (実数)

a. 外 来

(単位:人)

年齢 \ 年度	2021年度	2022年度	2023年度
0 歳	24	20	22
1 歳	48	49	45
2 歳	22	20	34
3 歳	18	19	23
4 歳	22	19	19
5 歳	27	17	20
6~12歳	103	89	96
13~17歳	55	43	39
18歳以上	26	22	17
合 計	345	298	315

b. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:人)

年齢 \ 年度	2021年度	2022年度	2023年度
0 歳	1	0	0
1 歳	0	0	0
2 歳	0	2	0
3 歳	1	0	0
4 歳	1	1	1
5 歳	2	1	4
6~12歳	4	3	3
13歳以上	4	4	2
合 計	13	11	10

(3) 作業療法の障がい別実施件数 (延)

a. 外 来

(単位:件)

障害区分		年度	2021年度	2022年度	2023年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害		357	374	391
	二分脊椎		78	86	43
	脳血管障害		18	15	18
	脳炎・脳症		25	21	25
	その他		25	85	59
(末梢)神経・筋疾患	筋ジストロフィー・その他		31	24	37
先天性異常 染色体異常など	ダウン症		129	141	160
	その他		236	153	114
原因不明の運動の遅れ			239	204	155
骨系統疾患	骨系統疾患		10	15	0
小児整形外科疾患	先天性内反足・内転足など		1	0	0
	筋骨格外傷および後遺症		24	19	3
	その他		0	2	0
神経発達症	神経発達症群	知的発達症	110	87	106
		言語症	64	189	154
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞あり)	1,065	1,449	1,172
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞なし)	367	399	434
		特異的学習症	21	12	12
		発達性協調運動症	311	132	167
		注意欠如多動症	4	48	32
		吃音症、その他の神経発達症	0	0	1
精神神経疾患	不安関連症群	緘黙、社交不安症、分離不安症など	2	15	30
合 計			3,117	3,470	3,113

b. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:件)

障害区分		年度	2021年度	2022年度	2023年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害		143	2	23
	二分脊椎		11	0	0
小児整形外科疾患	その他		0	1	0
神経発達症	神経発達症群	特異的学習症	1	0	0
		発達性協調運動症	0	1	0
合 計			155	4	23

(4) 作業療法の年齢別実施人数 (実数)

a. 外 来

(単位:人)

年齢 \ 年度	2021年度	2022年度	2023年度
0 歳	0	0	0
1 歳	12	10	15
2 歳	59	59	84
3 歳	87	101	94
4 歳	89	114	96
5 歳	74	106	95
6~12歳	59	67	75
13~17歳	20	9	9
18歳以上	2	3	3
合 計	402	469	471

b. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:人)

年齢 \ 年度	2021年度	2022年度	2023年度
0 歳	1	1	0
1 歳	0	0	0
2 歳	0	1	0
3 歳	2	0	0
4 歳	0	0	1
5 歳	0	1	1
6~12歳	2	0	0
13歳以上	2	1	0
合 計	7	4	2

(5) 言語聴覚療法の障がい別実施件数 (延)

a. 外 来

(単位:件)

障害区分		年度	2021年度	2022年度	2023年度	
中枢神経 (脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害		68	76	67	
	二分脊椎		0	0	0	
	脳血管障害		53	54	92	
	脳炎・脳症		68	50	34	
	その他		86	96	53	
(末梢)神経・筋疾患	筋ジストロフィー		0	0	3	
	その他		0	1	5	
先天性異常・染色体異常 など	ダウン症		231	233	224	
	その他		207	226	79	
原因不明の運動の遅れ			42	87	41	
小児整形外科疾患	その他		0	5	0	
聴覚障害	難聴		138	146	189	
音声機能障害	構音障害		384	364	287	
神経発達症	神経発達症群	知的発達症		115	106	127
		言語症		2,014	1,547	1,780
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞あり)		2,267	2,134	2,091
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞なし)		130	178	158
		特異的学習症		82	77	47
		注意欠如多動症		55	58	27
		吃音症、その他の神経発達症		33	71	52
精神神経疾患	不安関連症群	緘黙、社交不安症、分離不安症など		3	2	17
合 計			5,976	5,511	5,373	

b. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:件)

障害区分		年度	2021年度	2022年度	2023年度	
中枢神経 (脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害		77	1	0	
	脳血管障害		0	1	0	
先天性異常など	その他、末梢神経疾患		55	0	0	
小児整形外科疾患	ペルテス病		0	0	0	
神経発達症	神経発達症群	知的発達症		0	0	0
合 計			132	2	0	

(6) 言語聴覚療法の年齢別実施人数 (実数)

a. 外 来

(単位:人)

年齢 \ 年度	2021年度	2022年度	2023年度
0 歳	4	1	2
1 歳	23	14	20
2 歳	86	67	70
3 歳	169	164	200
4 歳	190	210	217
5 歳	152	208	167
6~12歳	177	185	152
13~17歳	11	5	4
18歳以上	10	1	5
合 計	822	855	837

b. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:人)

年齢 \ 年度	2021年度	2022年度	2023年度
0 歳	0	0	0
1 歳	0	0	0
2 歳	0	0	0
3 歳	2	0	0
4 歳	0	0	0
5 歳	2	1	0
6~12歳	1	1	0
13歳以上	1	0	0
合 計	6	2	0

(7) 音楽療法の障がい別実施件数(延)

a. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:件)

障害区分		年度	2021年度	2022年度	2023年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害		103	89	126
	二分脊椎		20	0	0
	脳血管障害		0	3	0
	脳炎・脳症		30	0	1
	その他		0	8	6
先天性異常・染色体異常 など	その他		0	0	11
小児整形外科疾患	乳児股関節脱臼・垂脱臼		0	34	22
	ペルテス病		45	32	0
	その他		0	35	11
神経発達症	神経発達症群	知的発達症	42	43	72
合 計			240	244	249

b. 児童発達支援センター つばさ

(単位:件)

障害区分		年度	2021年度	2022年度	2023年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害		4	30	18
	脳炎・脳症		11	40	0
	その他		0	0	17
先天性異常・染色体異常 など	ダウン症		10	0	46
	その他		8	40	84
原因不明の運動の遅れ			41	46	17
神経発達症	神経発達症群	自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞あり)	79	199	197
合 計			153	355	379

c. 生活介護事業所「オアシス」

(単位:件)

障害区分		年度	2021年度	2022年度	2023年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害		135	181	183
	脳炎・脳症		7	11	11
	その他		42	74	72
先天性異常・染色体異常 など	その他		52	50	31
合 計			236	316	297

(8) 音楽療法の年齢別実施人数 (実数)

a. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:人)

年齢 \ 年度	2021年度	2022年度	2023年度
0 歳	0	0	0
1 歳	0	0	0
2 歳	2	2	0
3 歳	0	0	0
4 歳	1	0	1
5 歳	0	2	6
6~12歳	5	3	5
13歳以上	17	11	19
合計	25	18	31

b. 児童発達支援センター つばさ

(単位:人)

年齢 \ 年度	2021年度	2022年度	2023年度
0 歳	0	0	0
1 歳	5	4	3
2 歳	11	17	14
3 歳	10	13	17
4 歳	7	9	4
5 歳	0	2	2
6 歳	0	0	0
合計	33	45	40

c. 生活介護事業所「オアシス」

(単位:人)

年齢 \ 年度	2021年度	2022年度	2023年度
18~20歳	7	5	4
21~30歳	9	11	12
30歳以上	9	8	6
合計	25	24	22

2 福祉施設部門

A 医療型障害児入所施設 つくし園

(1) 月別在籍数 (初日現在)

(単位:人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年度	8	6	6	6	5	6	9	9	7	7	7	6
2022年度	5	5	4	5	7	5	6	5	5	4	3	4
2023年度	3	3	2	2	2	3	3	1	2	3	2	2

(2) 障がい別集計 ※短期入所児は除く

(単位:人)

障害の区分		年度	2021年度	2022年度	2023年度
中枢神経(脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む) 中枢性協調障害		8	3	4
	二分脊椎		1	0	1
	脳血管障害		0	1	0
	その他		1	2	0
末梢神経疾患	その他		1	0	0
小児整形外科疾患	乳児股関節脱臼・亜脱臼		2	3	2
	ペルテス病		2	2	0
	その他		0	1	1
神経発達症	神経発達症群	知的発達症	1	1	1
合 計			16	13	9

(3) 年齢別集計 (入所時)

(単位:人)

年齢 \ 年度	2021年度	2022年度	2023年度
0 歳	2	2	0
1 歳	0	0	0
2 歳	0	2	0
3 歳	2	0	0
4 歳	0	1	2
5 歳	2	1	3
6~12歳	5	3	2
13~17歳	5	4	2
合 計	16	13	9

(4) 住所別集計

(単位:人)

住所	年度	2021年度	2022年度	2023年度
福井市		7	7	6
永平寺町		0	0	1
坂井市		1	0	0
鯖江市		1	3	0
あわら市		0	1	0
越前市		3	0	0
越前町		1	1	0
大野市		2	1	0
敦賀市		1	0	2
合計		16	13	9

・表の住所:こども療育センターから直線距離で近い順

(5) 進路別集計 (退所時)

(単位:人)

進路	年度	2021年度	2022年度	2023年度
特別支援学校		1	1	3
特別支援学級		0	1	0
高等学校		1	0	0
中学校		1	1	0
小学校		2	1	1
幼稚園・保育所		4	2	5
他の福祉施設		1	1	0
在宅		2	3	0
転院		0	0	0
死亡		0	0	0
合計		12	10	9

(6) 在籍期間別集計 (退所時)

(単位:人)

期間	年度	2021年度	2022年度	2023年度
3ヶ月未満		7	6	7
6ヶ月未満		1	0	1
1年未満		2	2	0
2年未満		0	0	0
3年未満		1	1	0
3年以上		1	1	1
合計		12	10	9

(7) 重複症状別人数

知的障害 の程度	IQ	動作能力の 制限 年度	走れる	歩ける	歩行障害	座れる	寝たきり
なし	86以上	2021年度	0	3	0	0	0
		2022年度	0	1	0	0	0
		2023年度	2	0	1	0	0
境界域	76～85	2021年度	0	0	0	1	1
		2022年度	0	0	0	1	0
		2023年度	0	0	0	0	1
軽度	51～75	2021年度	0	1	1	0	0
		2022年度	2	1	0	0	0
		2023年度	0	0	0	0	0
中度	36～50	2021年度	0	0	1	0	0
		2022年度	0	0	0	0	0
		2023年度	0	0	0	0	0
重度	21～35	2021年度	0	0	1	1	1
		2022年度	0	0	0	0	0
		2023年度	0	0	0	0	0
最重度	20以下	2021年度	0	0	0	0	1
		2022年度	0	0	0	1	1
		2023年度	0	0	0	0	3

・重症心身障害：“重度から最重度”の知的障害と“寝たきり”もしくは“座れる”レベルの動作能力の制限とを併せ持つ状態(大島分類)

・上記集計には、ペルテス病・股関節脱臼は含まない

B 児童発達支援センター つばさ

(1) 月別在籍数 (初日現在)

(単位:人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年度	22	23	24	25	27	25	26	27	28	30	30	30
2022年度	22	25	26	27	32	35	38	39	40	40	39	41
2023年度	23	28	32	33	35	37	36	34	34	29	29	29

(2) 障がい別集計

(単位:人)

障害の区分	年度	2021年度	2022年度	2023年度
中枢神経(脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む) 中枢性協調障害	1	2	2
	二分脊椎	0	0	0
	脳血管障害	0	0	0
	脳炎・脳症	4	4	0
	その他	1	1	0
(末梢)神経・筋疾患	筋ジストロフィー	0	0	1
	その他	0	0	0
先天性異常・染色体異常 など	ダウン症	1	0	3
	その他	2	6	6
原因不明の運動の遅れ		4	4	0
骨系統疾患	骨系統疾患	0	0	0
小児整形外科疾患	子宮内圧迫症候群	0	0	0
	斜頸	0	0	0
	先天性内反足・内転足など	0	0	0
	乳児股関節脱臼・亜脱臼	0	0	0
	発達期に特有の下肢変形 (O脚・X脚)	0	0	0
	脊椎変形	0	0	0
	ペルテス病	0	0	0
	外骨格外傷および後遺症	0	0	0
	その他	0	0	0
神経発達症候群	自閉症スペクトラム (言語発達遅延あり)	24	30	28
	自閉症スペクトラム (言語発達遅延なし)	0	0	0
	発達性学習症	0	0	0
	発達性協調運動症	0	0	0
	チック症、トゥレット症候群	0	0	0
	注意欠陥多動性症	0	0	0
	その他神経発達症	0	0	0
合計		37	47	40

(3) 年齢別集計 (通所開始時)

(単位:人)

年齢	年度	2021年度	2022年度	2023年度
0 歳		0	0	0
1 歳		10	8	4
2 歳		14	16	18
3 歳		11	16	14
4 歳		2	5	2
5 歳		0	2	2
6 歳		0	0	0
合 計		37	47	40

(4) 住所別集計

(単位:人)

住所	年度	2021年度	2022年度	2023年度
福 井 市		16	21	21
坂 井 市		7	7	3
鯖 江 市		2	3	4
あ わ ら 市		2	1	2
越 前 市		6	9	5
越 前 町		0	0	2
勝 山 市		0	0	0
大 野 市		0	1	1
南 越 前 町		4	3	0
永 平 寺 町		0	1	1
美 浜 町		0	1	1
合 計		37	47	40

・表の住所:こども療育センターから直線距離で近い順

(5) 進路別集計 (退所時)

(単位:人)

進路	年度	2021年度	2022年度	2023年度
児 童 福 祉 施 設		2	0	0
特 別 支 援 学 校		0	2	2
特 別 支 援 校 (盲 ・ ろ う) 学 校 (幼 稚 部 含 む)		0	2	0
小 学 校		0	0	0
幼 稚 園 ・ 保 育 所		15	18	23
在 宅 (未 就 学 ・ 未 就 園)		0	2	0
そ の 他		0	0	0
合 計		17	24	25

(6) 在籍期間別集計 (退所時)

(単位:人)

期間	年度	2021年度	2022年度	2023年度
	3ヶ月未満		0	0
6ヶ月未満		1	0	0
1年未満		0	5	7
2年未満		11	13	18
3年未満		3	2	0
3年以上		0	4	0
合計		15	24	25

(7) 重複症状別人数

(単位:人)

知的障害の程度	IQ	動作能力の制限 年度	走れる	歩ける	歩行障害	座れる	寝たきり
			なし	86以上	2021年度	0	0
		2022年度	0	0	0	0	0
		2023年度	0	0	0	0	0
境界域	76~85	2021年度	3	0	0	0	0
		2022年度	6	0	0	0	0
		2023年度	7	0	0	0	0
軽度	51~75	2021年度	18	0	2	0	0
		2022年度	21	1	1	0	1
		2023年度	21	2	0	2	1
中度	36~50	2021年度	6	1	1	0	0
		2022年度	4	3	1	1	1
		2023年度	1	4	0	0	1
重度	21~35	2021年度	0	0	1	0	3
		2022年度	0	0	1	1	3
		2023年度	0	0	0	1	0
最重度	20以下	2021年度	0	0	0	0	2
		2022年度	0	0	0	0	2
		2023年度	0	0	0	0	0

・重症心身障害: “重度から最重度”の知的障害と“寝たきり”もしくは“座れる”レベルの動作能力の制限とを併せ持つ状態(大島分類)

・2023年4月以前に入園した児は2023年4月1日付の状況、年度途中に入園した児は入園時の状況

(8) 水治療室利用件数

(単位:件)

年度	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2021年度	児	12	14	17	23	27	21	12	21	13	20	17	16
保護者		12	14	17	23	28	21	12	21	13	20	17	16	214
2022年度	児	10	14	26	27	26	32	25	21	8	22	27	22	260
	保護者	10	14	26	27	26	32	25	21	8	22	27	22	260
2023年度	児	13	14	24	26	28	30	15	13	12	0	14	0	189
	保護者	13	14	24	26	28	30	15	13	12	0	14	0	189

C 生活介護事業所「オアシス」

(1) 月別在籍数(初日現在)

(単位:人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年度	24	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
2022年度	23	24	24	24	24	24	24	24	24	23	22	22
2023年度	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21

(2) 月別利用者延べ人数

(単位:人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2021年度	127	107	133	125	122	115	132	126	123	108	98	129	1,445
2022年度	114	109	129	110	108	111	110	117	113	100	108	125	1,354
2023年度	106	104	121	106	117	107	108	103	105	100	98	106	1,281

(3) 障がい別集計

(単位:人)

障害区分		年度	2021年度	2022年度	2023年度
中枢神経(脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)、 中枢性協調障害		13	13	12
	脳血管障害		0	0	0
	脳炎・脳症		1	1	1
	その他		7	6	5
先天性異常・染色体異常 など	ダウン症		0	0	0
	その他		3	3	3
合計			24	23	21

(4) 年齢別集計(年度開始時)

(単位:人)

年齢 \ 年度	2021年度	2022年度	2023年度
18~20歳	6	5	3
21~30歳	11	11	12
31歳以上	7	7	6
合計	24	23	21

(5) 住所別集計

(単位:人)

住所	年度	2021年度	2022年度	2023年度
福井市		14	14	14
坂井市		8	7	6
鯖江市		2	2	1
合計		24	23	21

・表の住所:こども療育センターから直線距離で近い順

(6) 入浴利用者延べ人数

(単位:人)

年度	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2021年度		74	63	79	71	62	65	79	78	70	65	57	74	837
2022年度		71	68	76	62	65	66	68	73	67	61	60	68	805
2023年度		71	74	85	74	83	75	75	72	72	69	69	72	891

(7) バス通所利用者数延べ人数

(単位:人)

年度	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2021年度		66	58	67	65	64	54	68	66	58	55	47	63	731
2022年度		61	58	64	37	55	53	59	62	56	48	58	66	677
2023年度		51	48	63	54	57	53	54	52	54	49	54	53	642

(8) 重複症状別人数

(単位:人)

知的障害の程度	IQ	動作能力の制限	走れる	歩ける	歩行障害	座れる	寝たきり
		年度					
軽度	51~75	2021年度	0	0	0	0	0
		2022年度	0	0	0	0	0
		2023年度	0	0	0	0	0
中度	36~50	2021年度	0	0	0	0	0
		2022年度	0	0	0	0	0
		2023年度	0	0	0	0	0
重度	21~35	2021年度	0	0	0	0	7
		2022年度	0	0	0	0	6
		2023年度	0	0	0	0	4
最重度	20以下	2021年度	0	0	0	6	12
		2022年度	0	0	0	5	13
		2023年度	0	0	0	5	13

・重症心身障害:“重度から最重度”の知的障害と“寝たきり”もしくは“座れる”レベルの動作能力の制限とを併せ持つ状態(大島分類)

D 短期入所

(1) 利用件数

(単位:人)

年度	2021年度		2022年度		2023年度	
	実人員	延人数 (日帰り)	実人員	延人数 (日帰り)	実人員	延人数 (日帰り)
合計	40	1,575 (275)	48	1,649 (257)	45	1,594 (306)

・()は内数

(2) 重複症状別人数

(単位:人)

知的障害 の程度	IQ	動作能力の 制限 年度	走れる	歩ける	歩行障害	座れる	寝たきり
なし	86以上	2021年度	0	0	0	0	0
		2022年度	0	0	0	0	1
		2023年度	0	0	0	0	2
境界域	76~85	2021年度	0	0	0	0	0
		2022年度	0	0	0	0	0
		2023年度	0	0	0	0	1
軽度	51~75	2021年度	0	0	0	1	0
		2022年度	0	0	0	1	0
		2023年度	0	0	0	1	0
中度	36~50	2021年度	0	0	0	0	0
		2022年度	0	0	0	0	0
		2023年度	0	0	0	0	0
重度	21~35	2021年度	0	0	0	1	2
		2022年度	0	1	0	0	3
		2023年度	0	1	0	0	3
最重度	20以下	2021年度	0	0	0	6	30
		2022年度	0	0	1	7	34
		2023年度	0	0	1	6	29

・重症心身障害:“重度から最重度”の知的障害と“寝たきり”もしくは“座れる”レベルの動作能力の制限とを併せ持つ状態(大島分類)

3 地域支援活動

A 療育研修会

(単位:人)

事業	年度	2021年度	2022年度	2023年度
開催数		3	3	2
参加者		228	200	209

2023年度療育研修会 内容

第1回 2023年10月28日(土) 13:30-16:30

<第1部>療育センター所内見学会

療育センター所内見学会

<第2部>講演会

「ASD児・者の支援を考える」

講師:新井 豊吉先生

(東京家政大学こども支援学部こども支援学科特任教授)

第2回 2024年2月23日(金・祝) 13:00-16:00

<第1部>講演会

(1)「連携を考える～医療側の思い～」

講師:川谷 正男 先生 (福井県こども療育センター小児科医師)

(2)「医療と福祉との連携～連携のために必要なこと～」

講師:光真坊 浩史 先生(一般社団法人全国児童発達支援協議会理事)

<第2部>グループワーク(医療と福祉の連携を考える)

B 療育支援活動（2023年度）

（1）診療科別実施状況

a.小児科・児童精神科

派遣場所	対象・業務内容など	回数	内容分類				
			個別 相談	保護者 支援	職員 支援	検診	会議 講義
オンライン	福井県教育相談ネットワーク会議	1			○		○
オンライン	福井県発達障がい協議会	1					○
オンライン 社会福祉センター	保育士キャリアアップ研修会	2			○		○
県庁会議室	保育カウンセラー研修会 (こども家庭課)	2			○		○
美浜子育て支援センター	美浜町体制検討会	2				○	
福井県国際交流会館	福井県周産期医療協議会	1					○
福井県こども療育センター(オンライン含)	福井市自立支援協議会こども部会	10					○
福井県こども療育センター(オンライン含)	福井県小児医療体制会議	1					○
福井県こども療育センター	小児療育担当職員等実務研修事前研修会	1			○		○
福井県こども療育センター	福井県障がい福祉課連絡会議	1					○
福井県特別支援教育センター	福井県特別支援教育センター連絡会議	2					○
福井県特別支援教育センター	令和5年度医療的ケア特定行為従事者(教員)研修	1			○		○
福井県特別支援教育センター、福井市きらら館、中藤小学校	福井市教育支援委員会	7				○	
福井県立看護専門学校	小児看護学講義	1					○
福井県社会福祉協議会	保育士等キャリアアップ研修事業	2					○
福井市中央卸売市場	福井市発達相談会	1	○				
福井市役所	福井県虐待検討委員会(社会福祉審議会)	1					○
福井市役所	福井市特別支援教育専門委員会・地区別連絡会議	7					○
越前市児童発達支援センターなないろ	越前市療育研修会	1					○
越前市アルプラザ	越前市療育体制会議	4					○
福井県立盲学校	ケース会議	1	○				○

a.小児科・児童精神科(続き)

派遣場所	対象・業務内容など	回数	内容分類				
			個別 相談	保護者 支援	職員 支援	検診	会議 講義
和敬学園	ケース会議	1	○				○
福井市役所、福井市きらら館、オンライン	令和5年度福井市特別支援教育専門委員会	4			○		○
坂井市春江保健センター	令和5年度母子保健関係職員勉強会	1			○		○
美浜町健康福祉センターはあとぴあ、福井県立図書館	すみずみ子育てサポート研修会	2					○
結とぴあ	奥越自立支援協議会	1					○
坂井市役所	坂井地区発達障がい児支援研修	2					○

b.整形外科

派遣場所	対象・業務内容など	回数	内容分類					
			個別 相談	保護者 支援	職員 支援	検診	会議 講義	診療
市立敦賀病院 小児整形外科相談外来	嶺南地区の児童	6						○

c.耳鼻咽喉科

派遣場所	対象・業務内容など	回数	内容分類				
			個別 相談	保護者 支援	職員 支援	検診	会議 講義
特別教育支援センター	特別支援学校入学児の判定	3					○
盲学校	耳鼻科検診	1				○	

d.リハビリテーション室(ST)・地域支援課(ST)・耳鼻咽喉科

事業名	参加職種	回数
難聴児支援体制指導員派遣事業連絡会	聾学校、光道園、児童発達支援センター・事業所、障がい福祉課	3

(2) 地域支援課実施状況

事業名	受講状況	内容分類				
		個別 相談	保護者 支援	職員 支援	健診	会議 講義
小児療育担当職員等実務研修 (1週間コース)	5クール 9名			○		
小児療育担当職員等実務研修 (ペアプロコース)	3クール 8名			○		
ペアレント・プログラム	23名		○			
子育て講座	18回 193名		○	○		
出張講座「ほめるコツ ～ペアレント・プログラムのエッセ ンス～」	2校 (学校)			○		
	4施設 (児発・放デイ)			○		
出前講座「リハシル」	2園 (保育所)			○		
	3校 (学校)			○		
	6施設 (児発・放デイ)			○		
	1か所 (児童センター)			○		
R5年度すみずみ子育てサポート 事業研修会	2回 (47名)			○		

(3) 特別支援学校リハビリ相談事業～リハイク～実施状況

a. 特別支援学校(特別支援学校リハビリ相談事業～リハイク～)

学校名	申込 件数	相談(延べ人数)							
		PT		OT		ST		心理	
		訪問	その 他	訪問	その 他	訪問	その 他	訪問	その 他
奥越特別支援学校	5	2	1	4	4	3	3	0	0
清水特別支援学校	7	2	6	5	1	4	2	0	0
南越特別支援学校	20	6	13	10	8	11	10	0	0
福井特別支援学校	2	0	0	1	3	1	0	0	0
福井南特別支援学校	1	0	0	1	1	1	0	0	0
福井東特別支援学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福井大学教育地域科学 部附属特別支援学校	1	0	0	1	0	1	1	0	0
盲学校	1	1	3	1	0	2	1	0	0
嶺南西特別支援学校	6	3	3	2	0	4	2	3	0
嶺南東特別支援学校	5	1	3	3	1	6	4	0	0
嶺北特別支援学校	11	2	4	11	7	10	5	0	0
ろう学校	1	0	0	0	0	0	3	0	0
計	60	17	33	39	25	43	31	3	0

相談(延べ人数)

支援内容	PT	OT	ST	心理
姿勢	34	10	2	0
運動	36	6	4	0
呼吸	3	0	0	0
生活動作	0	34	5	0
学習・作業	2	54	12	0
言語理解	0	11	14	0
言語表出	0	12	27	0
構音	0	9	25	0
摂食	0	4	17	0
課題整理	0	0	0	2
計	75	140	106	2

C. 嶺南地域療育機能強化支援事業（2023年度）

a. 医療機関

派遣場所	職種	回数	件数		内容分類				
			診療	相談	個別相談	保護者支援	職員支援	会議	診療
地域療育拠点委託医療機関	理学療法士	8	18	9	○	○	○		
	作業療法士	7	20	4	○	○	○		
	言語聴覚士	66	92	117	○	○	○	○	○
	公認心理師	66	70	0	○	○	○	○	○
	理学療法士	2	3	2	○	○	○		
	作業療法士	3	5	3	○	○	○		
	言語聴覚士	20	18	77	○	○	○	○	

b. 児童発達支援センター

派遣場所	職種	回数 (学習会)	件数	内容分類				
				個別相談	保護者支援	職員支援	会議	診療
地域療育拠点委託事業所	理学療法士	6	10	○	○	○		
	言語聴覚士	8	21	○	○	○		
	理学療法士	3	6	○	○	○		
	言語聴覚士	23(7)	109	○	○	○	○	
	公認心理師	18(7)	77	○	○	○	○	

c. 市町

派遣先・事業内容など	職種	回数 (学習会)	件数	内容分類				
				個別相談	保護者支援	職員支援	会議	診療
敦賀市	乳幼児健診後経過観察教室(のびのび)	5(5)	15	○	○	○	○	
	発達支援教室(すてっぴ)	7	14	○	○	○	○	
	敦賀市自立支援協議会講師	1(1)	30			○	○	
	保育士等研修会	1(1)	28			○	○	

c. 市町（続き）

派遣先・事業内容など	職種	回数 (学習会)	件数	内容分類					
				個別 相談	保護者 支援	職員 支援	会議	診療	
小浜市	乳幼児健診後経過観察教室 (すまいる)	言語聴覚士	11(6)	42	○	○	○	○	
		公認心理師	6(2)	12	○	○	○	○	
	保育士会年齢別 研究会	公認心理師 言語聴覚士	2(2)	28			○	○	
	ペアレントプロ グラム	公認心理師	1	6		○	○	○	
美浜町	子育て支援セン ター 育児講座	公認心理師 言語聴覚士	1(1)	6	○	○	○	○	
	2歳児育児教室	言語聴覚士	3(3)	27	○	○	○	○	
若狭町	2歳児育児教室	公認心理師	10(10)	58	○	○	○	○	
	子育て支援セン ター 育児講座 (すくすく広場)	公認心理師	1	7	○	○	○	○	
	ことばとあそび の教室	公認心理師 言語聴覚士	8	75			○	○	
	発達支援学習会	公認心理師 言語聴覚士	3(1)	31			○	○	
おおい町	乳幼児健診後経過観察教室 (はぐはぐ)	公認心理師 言語聴覚士	12(5)	55	○	○	○	○	
	親子遊びの教室 ぐんぐん	公認心理師 言語聴覚士	10	25	○	○	○	○	
高浜町	乳幼児健診後経過観察教室 (すくすく教室)	公認心理師 言語聴覚士	11	43	○	○	○	○	
	子育て支援セン ター 育児講座 (こといくひろ ば)	公認心理師 言語聴覚士	1(1)	9					
YouTube 限定配信	敦賀市	医師 療法士	2(1)				○	○	
	小浜市	医師 療法士	3				○	○	
	美浜町	医師 療法士	1				○	○	

D 子育て講座実施状況（2023年度）

テーマ	(延べ人数)	
	参加保護者	参加支援者
子育てのコツと工夫Ⅰ	64	9
こどもとあそぼう～幼児期のあそびの紹介～	8	2
ほめるコツ～ペアレント・プログラムのエッセンス～	19	6
食べる動作のコツ	5	1
きがえとトイレ動作のコツ	4	2
こどもにとってあそびとは？	12	1
ことばの発達とコミュニケーションのコツ	28	3
からだの使い方のコツ	20	3
きょうだい支援	5	1
計	165	28

*1テーマにつき複数回ずつ実施している。表はその合計数。

4 その他の活動

A ボランティア活動

(1) ボランティアの受入状況 (延人数) (単位:人)

年度		2021年度	2022年度	2023年度
ボランティア				
団体		30	0	22
個人		1	0	0

B 実習・見学

(1) 実習生研修状況 (単位:人)

年度		2021年度	2022年度	2023年度
研修				
保育	実人員	31	6	4
	延人数	160	56	40
作業療法	実人員	0	0	1
	延人数	0	0	43
理学療法	実人員	2	0	0
	延人数	20	0	0
言語聴覚療法	実人員	0	0	0
	延人数	0	0	0
心理	実人員	1	2	2
	延人数	7	2	16
看護	実人員	51	51	42
	延人数	126	51	48
医師	実人員	0	3	4
	延人数	0	3	4

(2) 施設見学・視察受入状況

年度		2021年度	2022年度	2023年度
視察・見学				
件数		5	16	142
人数		23	25	184

C 水治療室の利用者別実施人数 (延)

(単位:人)

年度		2021年度	2022年度	2023年度
部門				
理学療法		488	454	492
児童発達支援センター つばさ		431	520	278
福井東特別支援学校		196	142	118
合計		1,115	1,116	888

Ⅲ 研究業績

1 学会発表

・川谷 正男(医師)

年月日	2023年5月25日～27日
場所	岡山県岡山市
名称	第65回日本小児神経学会学術集会
タイトル	コロナ禍における神経発達症の医療と教育の連携についての現状と課題
要旨	<p>【背景】</p> <p>近年、神経発達症と診断される児童・生徒が増えており、専門医療機関での受診待機や教育機関など関係機関との連携不足などが問題となっている。また、コロナ禍において直接の訪問や面談が制限されることも多くなっている。</p> <p>【対象と方法】</p> <p>福井県内の小児科医と全小中学校を対象に神経発達症に関する医療や教育現場での現状と連携についてのWEBでのアンケート調査を行い、福井県における小児の神経発達症の診療や教育の現状と課題を明らかにした。</p> <p>【結果】</p> <p>神経発達症に関して教育機関との連携の経験のある小児科医は42%であったのに対し、医療機関との連携の経験のある小学校は65%、中学校は74%であった。よく行う連携手段とその有用性については、医療機関、教育機関ともに文書での情報交換、電話での情報交換、学校関係者が医療機関を訪問し面談が多かった。オンライン会議の活用は限定的で、有用性も前述の連携手段より低かった。医療と教育の連携を行うための問題点として、医療機関では対応する人材の不足や時間の確保困難を挙げ、教育機関では小中学校ともに時間の確保困難と保護者や本人の了解困難を挙げていた。教育機関が医療機関に期待することは小中学校ともに保護者に対する本人への関わり方の助言であった。</p> <p>【結論】</p> <p>コロナ禍においても対面での連携の有用性を挙げる例が多かった。医療と教育の連携対応ができるコーディネーターの育成、連携のための時間の確保と保護者や本人に対して医療と教育の連携の意義を啓発していくことが課題として挙げられた。</p>

・川谷 正男(医師)

年月日	2023年8月5日～6日
場所	富山県氷見市
名称	第13回日本小児神経学会北陸地方会夏季セミナー(白山セミナー)
タイトル	医療と教育の連携について
要旨	<p>2022年に行った福井県内の小児科医、小・中学校に対するアンケート調査結果をもとに医療と教育の連携の実際や課題について概説した。医療と教育の顔の見える情報交換や相互交流、多職種での連携システムの構築、オンラインの活用などが今後の課題として挙げられた。また、当センターでの教育との連携に関する取り組みとして、特別支援学校リハビリ相談事業(リハシル)と出前講座(リハシル)の紹介も行った。</p>

・川谷 正男(医師)

年月日	2023年11月25日～26日
場所	香川県高松市
名称	第130回 日本小児精神神経学会学術集会
タイトル	福井県における神経発達症の医療と学校の連携に関する実態調査「医療が学校に期待すること、学校が医療に期待すること」
要旨	2022年に行った福井県内の小児科医、小・中学校に対するアンケート調査結果から、医療側が学校側に期待すること、学校側が医療側に期待することを中心に報告した。医療側から学校に期待することは、多い順に、学習障害への適切な配慮と教育、進学・進路時の適切な引継ぎ、学校内でのソーシャルスキルトレーニングなどの社会性の指導、学校内でのコミュニケーション能力向上への指導、不登校への対応強化、学校内でのアンガーマネジメントなどの感情調整方法の指導、学校内での心理カウンセリングの強化が挙げられ、学校内での療育的な活動を積極的に導入してほしいとの要望が多かった。一方、学校から医療に期待することは、小・中学校ともに、医療機関への期待は多岐にわたったが、特に、保護者への対応や学校への助言・相談への医療側からの介入の期待が大きかった。

・村田 淳(医師)、峰松 康治(医師)、櫻吉 啓介(医師)、野村 一世(医師)、有澤 章子(医師)、三崎 智範(医師)

年月日	2023年6月23日
場所	千葉市文化センター
名称	第62回 日本小児股関節研究会
タイトル	広範囲展開法により観血的整復した幼児期股関節脱臼3例 それぞれの経過とOR 非熟練医師による考察
要旨	入院牽引治療に習熟した結果、当科の股関節脱臼手術整復の絶対適応は2-3歳以降の診断遅延例に限られる。当科では2017年～2022年の5年間に3例5股の広範囲展開法での観血的整復例を経験した。 【症例】 4歳男両股脱、5歳女左股脱、2歳3か月齢女両股脱。術式は男児はOR+DVO+SIO、女児2例はOR単独で両側例は二期的に手術した。 【考察】 年長DDHに海外では症例1のようにORと同時に骨盤大腿骨の骨切りの併用が流行であるが、広範囲展開法はOR単独で同等の好結果を狙える術式である。本法の利点としては①関節包後面の十分な剥離とその結果、関節包の十分な切除(切開ではない)が安全に行えること②大転子を頭側に牽引する中小臀筋や梨状筋の確実な解離(外側の確実な減圧)の2点が大きいと感じている。特に後者に関して股関節が中間位(屈曲位ではない)で安定しない場合は筋解離のみでは減圧が不十分と考え、躊躇なく大腿骨短縮骨切りを加えるべきと考える。

・村田 淳(医師)、有澤 章子(医師)

年月日	2023年6月23日
場所	千葉市文化センター
名称	第62回 日本小児股関節研究会
タイトル	「新生児期(出生時退院前)学会推奨項目スクリーニング+1カ月齢での超音波二次検診(福井方式)」のすすめ
要旨	<p>【背景】 福井県の乳児股関節脱臼検診につき報告する。一次検診は乳児個別健診に含まれ、小児科医・産科医が、1、4、9-10 カ月齢で行う。検診項目は開排制限の有無のみだったが、令和元年に学会推奨項目の利用を県内医療機関に周知し、当面の目標を①二次精検率 10%確保と②二次検診時期を生後1カ月齢へと早期化、の2点とした。</p> <p>【対象と方法】 2014年～2022年の当科紹介児数を調査した。</p> <p>【結果】 福井県の乳児健診受診率は高いが股脱要精検率は最近まで1%台だったが2018年より増加し2022年に300人、6.0%を達成した。</p> <p>【考察と結論】 当科では産科施設での新生児退院前健診から当センターへ集約する流れで要精検率の増加を認めている。学会推奨項目適用率100%の施設もあり産科施設で新生児健診を担う小児科医への働きかけが特に有効と考える。今後も産科退院前新生児健診での学会推奨項目利用を広め、県下全乳児への学会推奨項目適用を目指したい。</p>

・村田 淳(医師)、有澤 章子(医師)

年月日	2023年11月24日
場所	神戸国際会議場(神戸市)
名称	第34回 日本小児整形外科学会
タイトル	「新生児期(出生時退院前)学会推奨項目スクリーニング+1カ月齢での超音波二次検診(FFDD:Fast Fit & Delayed Diagnosis 法)」個別健診地域に最適な理由と実施のコツ
要旨	<p>【背景】 福井県の乳児股関節脱臼検診は地域での乳児個別健診に含まれ小児科医・産科医が、1、4、9-10 カ月齢で行う。受診率は高いが、対象医療機関数が多いため精度管理や実態把握が事実上困難な点が問題だった。</p> <p>【現状】 2018年に学会推奨項目利用を通達し、産科施設で新生児退院前健診から直接当センターへ集約する流れが増加している。これにより要精検率は1%以下から6%に増加し、以前から目標としてきた早期診断・早期治療・早期教育も実現した。同時に公的乳児健診内で行われる公的な股脱検診も継続しfail safeとして機能している。</p> <p>【考察と結論】 学会は地域の実情に合った検診の再構築を謳っている。当地でも大人の事情に配慮しつつ工夫を行い現在のシステムを形成しつつある。本法は初めから意図して計画されたものではなく漸時形成されたものである。これまでの行ってきた取り組みの効果と問題点、FFDD法を行う際のコツ等につき紹介した。</p>

・村田 淳(医師)、峰松 康治(医師)、有澤 章子(医師)

年月日	2023年11月24日
場所	神戸国際会議場(神戸市)
名称	第34回日本小児整形外科学会
タイトル	生体吸収性インターフェアレンススクリューをブロックングスクリューとして使用したソルター変法の2例
要旨	<p>【目的】 ソルター手術はDDH遺残性臼蓋形成不全の治療として広く行われ、術後の矯正損失に種々の対策が試みられている。当科では生体吸収性スクリューによる骨片の戻り防止固定を考案した。初期の2例を報告する。</p> <p>【症例】 5歳女児2例、遺残性臼蓋形成不全に対しソルター手術を行なった(脱臼診断は11か月齢と10か月齢でOHT法で整復)。1例目は初回手術直後に尿管結石による急性腎不全を発症し治療のためギプスを除去している間に矯正損失を生じ再手術となった。その際、鋼線固定の補強目的でインターフェアレンススクリューをブロックングスクリューとして遠位骨片に刺入した。戻り防止効果は絶大で2例目は初回手術から本法を実施した。</p> <p>【考察】 生体吸収性インターフェアレンススクリューによるブロックングは有効であり、特に角状骨切りにより骨片間の開大が少ない例には効果が高い。確実な制動ができれば鋼線固定を廃して抜釘手術も不要となる可能性がある。</p>

・池本 操(看護師)・日種 美由紀(看護師)・岡 広美(看護師)

年月日	2023年11月10日
場所	大阪発達総合療育センター
名称	2023年度(第18回)東海・北陸・近畿ブロック肢体不自由児療育研修会
タイトル	身体拘束・行動制限解除に向けた取り組み ～勉強会の気づきから、拘束解除を実現した事例～
要旨	<p>身体拘束等の適正化の更なる推進が求められる現在、当施設においても身体拘束解除を目指し活動に取り組んでいる。今回、身体拘束の勉強会を機に、職員が「腰エプロンは拘束である」と認識し、利用者Aさんの腰エプロンの拘束解除をめざした。</p> <p>拘束解除に向けて、Aさんの①情報収集②脱衣の原因を探る③余暇活動の充実④環境の整備⑤日課表の作成を行った。適切な排泄ケアの提供、Aさんの特性や生活に寄り添った日中活動を多方面から模索し、具体的な個別支援に取り組んだ結果、Aさんの脱衣が減り、職員やほかの利用者と触れ合うことで笑顔が増え生活の質も向上された。また、成功事例によって職員の自己効力感を高めることができたと考える。</p> <p>今後も職員全体で意欲的に取り組めるよう、組織的な拘束廃止活動を展開し、利用者の尊厳を重視したサービスを提供していきたい。</p>

・里 千鶴(言語聴覚士)

年月日	2023年6月23日
場所	愛媛県県民文化会館
名称	第24回 日本言語聴覚学会
タイトル	先天性核上性球麻痺に対する2年間のリハビリ経過
要旨	<p>【はじめに】</p> <p>先天性核上性球麻痺は、上位運動ニューロンの障害により先天的に咽頭喉頭部の運動異常を呈する極めて稀な疾患である。今回、この疾患に対する嚥下訓練を中心としたリハビリ経過を報告する。</p> <p>【症例】</p> <p>3歳、男児、A病院にて37週2700g帝王切開で出生。出生時より左手に驚手変形、両眼振を認めた。頭部MRI異常所見なく。VFにて持続性のミルク誤嚥を認め、先天性核上性球麻痺と診断された。以後、経鼻経管栄養管理となったが、胃食道逆流が頻発。1歳1ヶ月時、外来リハ開始。</p> <p>【初期評価】</p> <p>1歳1ヶ月時、DENVERⅡで粗大運動8ヶ月、言語、個人-社会、微細運動は12ヶ月。食事はトロミつきミルクを経鼻経管にて注入。常に湿声あり、時に嚥下反射惹起あるが、咽頭残留除去困難。高口蓋、開鼻声あり。</p> <p>【経過】</p> <p>1歳6ヶ月時、座位安定。胃食道逆流の軽減あり、トロミつきミルクから直接訓練開始。1歳9ヶ月時、咽頭残留減少に伴い、ペースト粥に移行。その後、徐々に食事形態、食事回数増加。2歳7ヶ月時、歩行安定。日常的な指示理解可。2語文の表出あるも開鼻声強い。食事は、偏食は強いが軟飯、軟菜摂取可能となり、経鼻経管抜去。水分は少量ずつ摂取。</p> <p>【考察】</p> <p>本児は、身体発達に伴い胃食道逆流が軽減した。また、認知面の発達に大きな遅れがなく、姿勢コントロールや嚥下の意識化などが可能であったことが良好な経過につながったと考える。安定した通院が困難であっても、その都度発達全般を見極め、家族が確実にできるアプローチを指導することが重要である。</p>

・里 千鶴(言語聴覚士)

年月日	2023年6月24日
場所	愛媛県県民文化会館
名称	第24回日本言語聴覚学会
タイトル	外科的治療により前頭葉症状に改善がみられた小児てんかん児の経験
要旨	<p>【はじめに】</p> <p>外科治療により前頭葉症状に改善がみられた小児てんかん児を経験したので報告する。</p> <p>【症例】</p> <p>5歳、右利き、女児。発症年齢11ヵ月。主に睡眠時にシリーズ形成を伴う左手優位の強直発作を認め、睡眠時脳波で全般性高振幅不規則棘徐波や右前頭部～中心部に多棘波を認めた。多剤抗てんかん薬治療抵抗性を示し、5歳6ヶ月時に右前頭葉切除術施行。</p> <p>【術前検査所見】</p> <p>PVT-R: 語彙年齢3歳6ヶ月(評価点6)質問応答関係検査: 評価不能。FAB: 3点。視線は合うが、質問への応答は乏しく、単語レベルのマイペース</p>

<p>な発話のみ。その他、注意力の低下、遂行機能障害、左手指のこわばりが観察された。</p> <p>【術後経過】 術後貧血、少量の頭蓋内血腫を認めた。てんかん発作は日単位で見られるが術前と比べ頻度は減少し、発作の強さも少し軽減した。</p> <p>【術後検査所見】 PVT-R: 語彙年齢 5 歳 0 ヶ月(評価点 9) 質問応答関係検査: 総得点 127 点(3 歳後半レベル)。FAB: 8 点(類似性と運動系列、Go/No・Go にて得点上昇あり)。術前と比べ、発話開始時の遅延反応に改善あり。語想起のスピードが速くなり、発話量もやや増加。遂行機能障害、左手指のこわばりが軽減。</p> <p>【考察】 重要な脳機能に関与する部位を含んだ根治的切除は重篤な神経学的後遺症を引き起こす可能性も考えられるが、本児においては右前頭葉切除によりてんかん発作が軽減し、運動プログラミング、行動抑制のコントロールにて改善を認めた。また、コミュニケーション意欲の向上に加え、概念化や判断力といった思考力に良好な影響を及ぼすことが確認された。</p>
--

2 講演

・津田 明美(医師)

年月日	2023 年 4 月 22 日
場 所	越前市市民プラザたけふ 4F 多目的ホール
名 称	越前市児童発達支援センターなないろ支援体制強化の講師
タイトル	発達に支援が必要な子どもへの大切な関わり
要 旨	越前市なないろが支援体制強化として放課後デイサービス、相談支援を委託して開始。 発達に支援が必要な子どもへの大切な関わりは (1) 子どもの発達の道筋 (2) ①子どものことを知る ②結果(診断)について知る (3) 対応を知る ①どの児にも必要な対応 ②その児に必要な対応 ③支援体制を知る(作る) (4) 自分(保護者)に余裕があること

・津田 明美(医師)

年月日	2023 年 5 月 15 日
場 所	オンライン
名 称	福井県発達障がい児支援地域協議会
タイトル	福井県子ども療育センターの地域支援(発達障害分野)
要 旨	当センターの発達障害分野の取り組みについて説明した。 外来講座、子育て講座、特別外来の紹介 取り入れている手法 インターネット情報

・津田 明美(医師)

年月日	2023年7月19日
場所	オンライン
名称	発達障害児者福井県方式支援ツール「子育てファイルふくいっ子」活用のための保育士等研修会【基礎編】
タイトル	発達障害の理解と支援
要旨	発達障害についての基礎知識と対応について話した。

・津田 明美(医師)

年月日	2023年8月3日
場所	オンライン
名称	保育士キャリアアップ研修
タイトル	障害児保育
要旨	保育士のキャリアアップ研修として障害について基礎知識、特に発達障害について、療育について講義した。

・津田 明美(医師)

年月日	2023年10月26日
場所	きらら館
名称	第2回福井市特別支援教育コーディネーター等 地区別連絡協議会
タイトル	将来を見通した発達障がいのある子どもの支援について
要旨	学校の先生の発達障害についてのよく聞く質問をもとに、発達障害についてどのように考えるか、対応の方法について話した。 「強度行動障害」といわれる状態について、その原因、予防、対応について伝え、学校で視覚的支援を継続すること、環境整備の大切さについて話した。 発達障害のある子の将来の姿がどのようなであればいいのいかを先生方と考えた。 後半はグループワークを実施した。

・津田 明美(医師)

年月日	2023年11月11日
場所	市民プラザたけふ 3F
名称	公益財団法人ふくい女性財団・カンガルークラブ福井
タイトル	這えば立て、立てば歩めの親心
要旨	低出生時の保護者対象に子育てのコツ、発達が気になる児の対応の方法について講義した。

・津田 明美(医師)

年月日	2023年12月6日
場所	坂井市春江西コミュニティセンター 大ホール
名称	第4回坂井地区発達障がい児支援研修会
タイトル	将来を見通した発達障がいのある子どもの支援について
要旨	スクラム福井主催 福井県小児科医会共催の支援者研修会で高機能自閉スペクトラム症の事例をもとに地域での支援の大切さについて講義した。 その後グループワークを実施、地域の支援者の交流を図った。

・川谷 正男(医師)

年月日	2023年7月26日
場所	福井県福井市
名称	2023年度 医療的ケア特定行為従事者(教員)研修
タイトル	医療的ケア(呼吸障がい)について
要旨	福井県内の学校教職員を対象に、医療的ケアの意義、呼吸障害の原因、病態と対応について、口腔内/鼻腔・気切カニューレからの吸引の実際と注意点、感染予防対策、緊急時の対応、てんかんなどについての講演を行った。

・川谷 正男(医師)

年月日	2023年11月5日
場所	福井県吉田郡永平寺町
名称	福井大学子どもこころの発達研究センター講演会
タイトル	医療からみた発達障がいの支援のあり方
要旨	福井大学子どもこころの発達研究センター主催で福井県内の子どもこころに関する支援者や保護者が主に参加する講演会が開催され、福井県内における発達障がいの診療の現状と課題、専門医療機関、一般小児医療機関やかかりつけ医でできることとできないこと、医療と教育の連携に関するアンケート調査について、小児慢性疾患の医療について小児科から成人科への移行の現状と課題、今後の発達障がい分野における医療のあり方などについての講演を行った。

・堀田 さおり(保育士)

年月日	2023年7月9日
場所	福井大学医学部附属病院臨床教育研修センター 白翁会ホール
名称	第71回福井県小児保健協会学術集会
タイトル	児童発達支援センター つばさでの親子通所による支援
要旨	難しい子育てに直面し不安な保護者が、親子通所(保護者参加型保育、個別面談、保護者学習会、ペアレント・プログラム等)を通して、障がいや発達の特性を理解し、わが子について知り、わが子に合った子育てスキルを身に着けることは子の育ちに好影響を与えると考える。また、親子通所で他の保護者と出会い悩みや情報を共有することは保護者の子育ての支えとなっており、将来にわたっての支援の仲間づくりにも役立っているようである。 児童発達支援センターであるつばさは、引き続き、すべての子どもが適切な支援により当たり前の暮らしと育ちができるよう、親子通所の利点を活かした直接支援と福井県全域への地域支援を行っていく。

・堀田 さおり(保育士)

年月日	2023年11月1日
場所	オンライン(福井県社会福祉センター)
名称	福井県保育士会研修会
タイトル	「ほめるコツを学んで心地よい関係を」
要旨	ペアレント・プログラムは、①子どもや自分を行動で捉える、②できた行動をほめて対応することで保護者の認知の枠組みが変容することを目的とするプログラムである。 「行動」で捉え、できた「行動」に対してほめることが重要で、それは子ども

<p>に対してだけでなく相手が誰であっても、また自分自身にも効果的である。</p> <p>そして、完璧でなくても 60～70%できていれば OK、それはいいところだと考え、どの行動が良かったのか、または、どう行動することを期待されているのかが分かるよう「行動」を具体的にほめることがポイントである。</p> <p>保育園等でもこの考え方を取り入れることで、子どものより良い育ちが期待でき、また、保護者や同僚との心地良い関係にもつながると考えられる。</p>
--

・堀田 さおり(保育士)

年月日	2023年11月8日
場所	福井県自治会館
名称	2023年度福井県医療的ケア児者養成研修・医療的ケア児等コーディネーター養成研修
タイトル	「あそびと家族支援」
要旨	<p>こどもには様々なあそびの経験が必要で、それは、定型発達児だけでなく、医療的なケアが必要な児であっても重症心身障がい状態にある児でも同じである。「きっと危ない」「なんとなく不安」という大人の抽象的な不安で子どもの経験を妨げてしまうのではなく、正確な情報を基に、具体的な対応、対策を、チームで検討し共有することが、安心して保育、発達支援をすることにつながる。</p> <p>また、支援者は、子ども本人の発達だけでなく、親の発達の可能性にもしっかり寄り添って立ち、親になりゆく支援としても相談を進めていく必要がある。</p> <p>親がやがて「親だからすべて親が何とかしなければならぬ」ではなく、「いろんな人たちに支えられていい」、「ゆっくり立ち上がっていけばいい」と思えるように、児にかかわるすべての支援者が、縦と横の連携をしっかりとって、親が受容過程の中で行きつ戻りつしながら親となっていくことに寄り添っていくことが必要である。</p>

3 執筆

・川谷 正男(医師)

年月日	2023年5月22日
名称	福井新聞 教育みち案内
タイトル	朝起きられず遅刻します
要旨	<p>Q. 朝起きられず学校に遅刻します。</p> <p>息子は小学 5 年生で夜寝るのが遅くなり、朝はなかなか起きられずに朝の準備も時間がかかるため学校に間に合いません。早く寝るように言っても「わかった」と言うだけでゲームをしたりしてなかなか寝ません。学校の先生に聞くと授業中も興味がないとぼーっとしていたり、寝てしまうこともあるようです。どうしたらいいでしょうか。</p> <p>A. まずは睡眠リズムを整えましょう。</p> <p>日本は世界の中でも夜更かしをする子どもが多いと言われていて、2022 年度の学研教育総合研究所の調査によると、小学生全体の平均就寝時刻は 21 時 42 分ですが、学年が上がるにつれて遅くなり、22 時以降に就寝する児童の割合は 5 年生で 43.0%、6 年生で 63.0%となっています。睡眠不足の状態になると、寝起きが悪くなるだけでなく、記憶力、判断力、注意力、意欲や体力の低下を引き起こすと言われています。では、よい睡眠をとるための生活習慣の 5 つのポイントを挙げます。</p>

	<p>1)毎朝決まった時間にカーテンを開けて日の光を浴びる。 2)朝ご飯を必ず食べる。 3)昼間はしっかり体を動かす。 4)夜は決まった時間に暗くして静かにして早く寝る。 5)平日と休日の睡眠リズムを同じにする。</p> <p>就寝前にスマホやゲーム機などを使用するとデジタル機器の液晶画面から発するブルーライトによって、睡眠リズムを調整するメラトニンの分泌が抑えられるためさらに眠りを妨げます。デジタル機器の使用方法については家族の間でよく話し合ってルールを決めるとよいでしょう。早寝が難しい場合は、早起きを心がけましょう。休日も平日と同じ時間に起きて日光を浴びる習慣を続けていくと、体内時計の影響から徐々に早寝にもつながっていきます。生活習慣の見直しをしても睡眠リズムの改善が得られず日常生活や学習への影響が大きい場合は、医療機関の受診も考えてみましょう。睡眠リズムに影響する心身の問題や必要に応じて子どもでも使用可能な薬物療法などを相談することができます。</p>
--	---

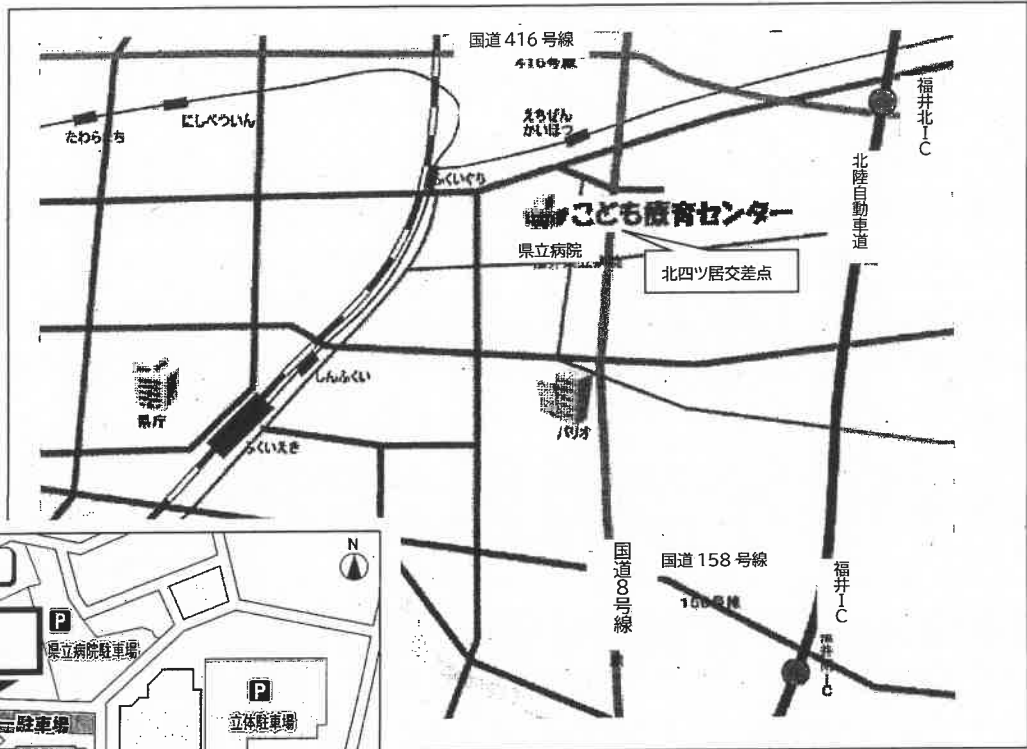
・村田 淳(医師)

年月日	2023年4月 発行
出版社	医学書院
雑誌名	臨床整形外科 第58巻 第4号 p411-416
タイトル	福井県式乳児股関節脱臼検診「新生児期(出生時退院前)学会推奨項目スクリーニング+1か月齢での超音波二次検診」のすすめ
要旨	<p>【背景】 福井県の乳児股関節脱臼検診は、これまで小児科産科に受託の個別乳児健診で行われる開排制限の有無での判定のみで行われ、要精検率は1%未満、問題症例も多かった。全国の他の地域同様に学会推奨項目を用いた検診を軸に再構築中である。</p> <p>【対象と方法】 2014~2020年の股脱検診における要精検率を種々の統計により後方視的に分析した。当初1か月乳児健診からの紹介増を図ったが、現在は産科医療機関での出生時スクリーニングと、間をおいて1か月齢での超音波二次検診を核としている。</p> <p>【結果と考察】 要精検率は1%未満から3.5%に増加したが産科医療機関により0~10%と施設差が大きい。福井県方式では詳細な分析が可能である点が大きな利点と考える。</p>

4 所内研修

・川谷 正男(医師)

年月日	2024年2月23日
場所	福井県福井市(当センター)
名称	2023年度第2回療育研修会
タイトル	連携を考える ~医療側の思い~
要旨	<p>福井県内の発達障がいの支援に関わる人を対象にした講演会を行った。福井県での医療の現状と課題、医療でできることやできないこと、医療受診の目的やタイミング、発達障がいの長期予後と介入のポイント、医療と教育の連携の課題や要望、発達障がいの成人期移行の課題、医療が期待する福祉の役割、発達障がい分野における今後の医療のあり方などについての講演を行った。</p>



- ◎ えちぜん鉄道・・・「福井口」下車 徒歩 約 10分
- ◎ 京福バス・・・福井駅バスロータリー(西口) ①のりば
 「36 県立病院丸岡線」 「39 大和田丸岡線」 ⇒ 「県立病院」下車
 福井駅からバスで約 13分、その後、徒歩 約 5分
- 福井駅バスロータリー(西口) ⑥のりば
 「1 すまいるバス すまいる東ルート 城東・日之出方面」
 ⇒ 「県立病院口」下車
 福井駅からバスで約 30分、その後、徒歩 約 8分

療育のあゆみ 2023年(令和5年)度業務統計

2024年7月10日 発行

編集・発行 福井県子ども療育センター
 〒910-0846 福井市四ツ井2丁目8-1
 電話 0776-53-6570
 FAX 0776-53-6576